PENTAX *ist 使用説明書

PENTAX

カメラの準備と基本操作
すぐに撮影を始めたい場合
基本的な使い方［撮影］
応用的な使い方
撮影をより楽しみたい場合
その他について

*ist

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックスカメラ*ist をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を充分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

このカメラで使用できるレンズは、FA Jレンズ、または絞り A(オート)のポジションのあるレンズのみです。カスタムファンクションでレンズ絞り A 以外でのレリーズ許可を設定しない限り、レンズの絞りリングを A 以外にしたり、A ポジションのないレンズやオートベローズ、オート接写リングなどのアクセサリーを取り付けると、カメラが作動しなくなります。
カスタムファンクションの設定については、本書の134ページをご覧ください。

商標について
「PENTAX」はペンタックス株式会社の登録商標です。
「smc PENTAX」「*ist」はペンタックス株式会社の商標です。

「林檎の秘密」（有料）
すぐに役立つ写真の基礎知識

露出の仕組みや光の測り方、ピントの合わせ方など、写真の基礎を豊富なイラストと作例でわかりやすく解説しています。
サービス窓口・ペンタックスファミリーまたは最寄のカメラ店でお買い求めください。

カメラを安全にお使いいただくために

この製品の安全性については充分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

 警告 このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

 このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

 禁止事項を表すマークです。

 注意を促すためのマークです。

⚠ 警告

- カメラを分解しないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特に、レンズ単体では、失明の原因になりますのでこ注意ください。
- 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一、電池を飲みこんだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 注意

- 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、やけどに十分注意して速やかに電池を取り出してください。
- ストロボ発光部に手を密着させたり、衣服をかぶせたまま発光させないでください。火傷を負ったり、衣服が焦げるおそれがあります。

電池の取り扱いについての注意

◎このカメラでは、決められた電池以外は使用しないでください。
電池の破裂、発火の原因となります。
◎電池を交換するときは、違うメーカー、違う種類の電池を混ぜて入れないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
◎電池の「＋」と「−」の向きを間違えて入れないでください。電池の破裂、発火の原因となります。
◎このカメラで決められた電池は、充電ができません。また分解はしないでください。無理に充電や分解をすると、破裂や液漏れの原因となります。

取り扱い上の注意

◎汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
◎高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
◎防虫剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また、高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
◎このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかるところでは使用できません。
◎強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。
◎カメラの使用温度範囲は－10℃～50℃です。
◎高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
◎低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることがありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
◎レンズ、ファインダー窓のホコリは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロワーは、レンズを破損させる恐れがありますので、使用しないでください。
◎マクロレンズや望遠レンズを使用したときは、ファインダーの上部がミラー切れによって暗くなることがありますが、撮影した写真には影響ありません。
◎高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
◎長期間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用や逸失利益等）については保障いたしかねます。

取り扱い上の注意

◎急激な温度変化を与えると、カメラの内外が結露し、水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。

◎ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。

目 次

目次

4 その他について 131

各部の名称

AVボタン
モードダイヤル
セレクトダイヤル
ミラー
シャッター
ボタン
フォーカスモードレバー
途中巻き戻し
ボタン
裏ぶた
開放レバー
レンズ情報接点
電源レバー
レンズ取り
外しボタン
マウント
指標
AFカプラー

ホットシュー
内蔵ストロボ
ファインダー
測光モード
レバー
ストロボ
ボタン
フィルム情報窓
表示パネル
レリーズソケット
ドライブボタン
ストロボモードボタン

主な付属品の確認

カメラストラップFM

電池
（サンプル）

レンズマウントカバー
（カメラ装着）

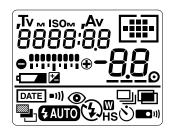
ホットシューカバーFK

アイカップFM
（カメラ装着）

MEファインダー
キャップ

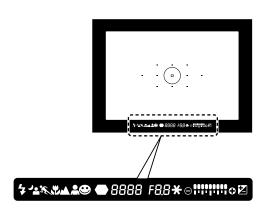
リモート
コントロールF

・使用説明書（本書）
・保証書
・三脚用補助板

表示パネルの表示ガイド

- Tv 8888：シャッター速度
- ISO 8888：フィルム感度［126ページ］
- Av 8.8：絞り値
- ：測距点［96～97ページ］
- ：日付／時刻の表示［28～31ページ］
- ：バーグラフ［81、85ページ］
- ：電池消耗警告［26ページ］
- 88：フィルム枚数［36ページ］
- ：フィルム状態［36、50ページ］
- DATE：日付／時刻写し込みの有無［30ページ］
- ：電子音の有無［87ページ］
- ：オートブラケット［63ページ］
- ：露出補正［85ページ］
- AUTO：ストロボ自動発光［45ページ］
- ：赤目軽減機能［105ページ］
- ：ストロボ発光禁止［104ページ］
- ：ストロボ情報［103ページ］
- W：ワイヤレス発光モード［104、121ページ］
- HS：ハイスピードシンクロモード［104、119ページ］
- ：連続撮影［55ページ］
- ：多重露出［61ページ］
- ：セルフタイマー［56ページ］
- ：リモコン撮影［59ページ］

メモ

- 暗いところで表示パネルを使用するときは、電源レバーを の位置に合わせると、約10秒間表示パネルの照明をつけることができます。AF360FGZを使用するときは、AF360FGZの表示パネルの照明も同時に点灯します。
- カスタムファンクションの設定で、表示パネルの照明が暗い場所で自動的につくようにしたり、あるいは照明機能をOFFにすることもできます。
  カスタムファンクションの設定については、134、141ページをご覧ください。

ファインダー内の表示ガイド

測距点
スポット測光範囲円
ストロボ情報
夜景モード
動体モード
近接モード
風景モード
人物モード
標準モード
ピント情報
シャッター速度
絞り表示
AEロック
バーグラフ
露出補正

※ サービスサイズのカラープリントでは、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。
※ このカメラで撮影したフィルムを現像すると、フィルムのコマ番号が上下逆さまになります。プリントの焼き増しのときなど、注意してください。

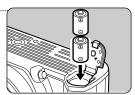
メモ

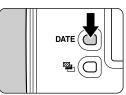
- シャッターボタンを半押しにすると、測距点が赤くスーパーインポーズ表示されます。スーパーインポーズは測距点を中心に、ある程度の広がりをもって表示されます。カスタムファンクションでスーパーインポーズ表示しないように設定することもできます。カスタムファンクションの設定については、134、138ページをご覧ください。

使い方は簡単です

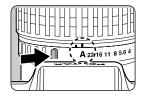
[とにかく撮影してみたい方のために]

1 電池を入れてください

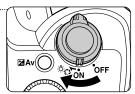
リチウム電池「CR2」を2本入れます。[23ページ]

2 日付／時刻を合わせます

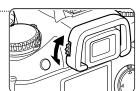
このカメラは出荷時には日付／時刻が合わせてありません。電池を入れた後、必ず合わせてください。[28ページ]

3 レンズを取り付けます

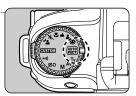
レンズとカメラのマウント指標［赤点］を合わせて右に回してロックします。[32ページ]

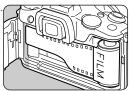
メモ

- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを A 位置に合わせます。

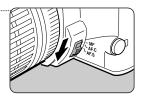
4 電源を入れます

電源レバーをONに合わせます。

5 ファインダーの視度を調整します

視度調整ダイヤルを回して、ファインダー内の表示が最もはっきり見える位置に合わせます。[34ページ]

6 オートピクチャーモードにします

モードダイヤルを回して、AUTO PICT の位置に合わせます。[41ページ]

7 フィルムを入れます

フィルム先端を図の位置に合わせて裏ぶたを閉めます。自動的に1枚目まで進みます。[35ページ]

8 オートフォーカスにします

図のレバーを AF.S に合わせます。
[43ページ]

9 大きさを決めます

ズームリングを回して、写すものの大きさを決めてください。
[46ページ]

10 ピントを合わせて撮影します

ピントを合わせたいものを測距点 [ ] の内側に入れて撮影します[48ページ]。シャッターボタンを半押しにすると、必要なときは自動的にストロボが上がります。

各種レンズを組み合わせたときの機能

各種レンズの使用について

このカメラで使用できるレンズは、FA Jレンズまたは絞りリングに A 位置のあるFA・F・Aレンズのみです。これ以外のレンズあるいは、FA・F・Aレンズで絞りを A 位置から外した場合は、シャッターがきれないためご使用いただけません。

機能　　レンズ [マウント名]	FA J･FAレンズ [KAF、KAF2] 注3	Fレンズ [KAF] 注3	Aレンズ [KA]
オートフォーカス（レンズ単体使用）	○	○	×
（AFアダプター1.7×使用）注1	ー	ー	○
マニュアルフォーカス（フォーカスインジケーター表示の利用）注2	○	○	○
（マット面の利用）	○	○	○
11点測距	○	○	×
パワーズーム	×	×	×
オートピクチャー、ピクチャーモード	○	○	○注4
絞り優先自動露出	○	○	○
シャッター優先自動露出	○	○	○
マニュアル露出	○	○	○
TTLオートストロボ	○	○	○
分割測光（16分割）	○	○	○

○：　絞りが A 位置であれば、その他は制限なくご使用になれます。
×：　ご使用になれません。

注1：レンズの開放F値がF2.8、およびそれより明るいレンズのみ。[A] 位置でのみ使用可。
注2：レンズの開放F値がF5.6、およびそれより明るいレンズのみ使用可。
注3：F・FAソフト85mmF2.8、およびFAソフト28mmF2.8では、カスタムファンクションでレンズ絞り [A] 以外でのレリーズ許可を設定した上で手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。
注4：オートピクチャーでは標準モード [☻] 固定になります。

レンズ名称とマウント名称について

FAの単焦点レンズ（ズームでないレンズ）とFA J ・FレンズのマウントはすべてKAFマウントです。FAズームレンズのうち、パワーズームが可能なレンズはKAF2マウント、パワーズームのできないレンズはKAFマウントです。詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。なお、このカメラにはパワーズーム機構はありません。

使用できないレンズ・アクセサリーについて

このカメラで使用できるレンズは、FA Jレンズまたは絞り [A]（オート）のポジションのあるレンズです。カスタムファンクションでレンズ絞り [A] 以外でのレリーズ許可を設定しない限り、絞りリングを [A] ポジション以外にしたり、 [A] ポジションのないレンズやオート接写リング、オートベローズなどのアクセサリーを取り付けると、カメラは作動しなくなります。カスタムファンクションの設定については134、142ページをご覧ください。

説明書の構成について

説明書を効果的にご使用いただくために、次のような構成になっています。

1 カメラの準備と基本操作

→21ページ

2 基本的な使い方[撮影]

→39ページ

3 応用的な使い方

→53ページ

4 その他について

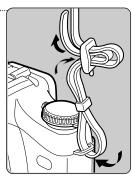
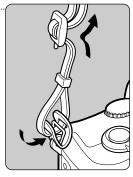
→131ページ

とにかく撮影をしてみたい方は「カメラの準備と基本操作」と「基本的な使い方［撮影］」をお読みください。最小限の操作を知っていただくだけで簡単な撮影がお楽しみいただけます。

もっと様々な撮影を楽しんでみたい方は…

1 カメラの準備と基本操作

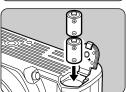
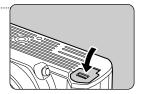
ストラップを取り付けます

1 ストラップの先端が留め具の内側になるように固定します。

2 もう一方のストラップ先端を、保護シートとストラップ三角環に通し、留め具の内側になるように固定します。

✍メモ

- ストラップの留め具は、フィルムの途中巻き戻しや日付や時刻の修正に使用します。留め具の位置は、カメラからある程度離して取り付けてください。

Chapter 2
電池を入れます

1 電池ぶたのつまみを▲の方向に押して電池ぶたを開けます。

2 電池の－側を先にリチウム電池［CR2］を2個入れます。

3 「パチン」と音がするまで電池ぶたを押してロックします。

4 電池を取り出すと時刻が0：00（0時0分）にリセットされます。必ず時刻の修正を行なってください［28ページ］。

メモ
- 電池を交換時には、電池を取り外した時点のフィルム枚数および日付［年月日］はそのまま記憶されています。
- 電池を交換しても正しく作動しないときは、電池の向きを確認してください。

✍メモ

- このカメラは電池がないと動きませんので、操作をする前には、必ず決められたリチウム電池「CR2」を2個入れてください。サンプルの電池が添付されていますので、この電池をお使いください。
- 単3形アルカリ電池を使える、別売りのバッテリーグリップBG-20もあります。
- 電池を交換するときは、全部を一度に、同一メーカー・同一種類で行なってください。また、新しい電池と古い電池を混ぜないでください。
- このカメラは本体の作動、日付／時刻とも同じ電池を使います。
- 日付や時刻の設定は28ページをご覧ください。

電池交換後の初期設定

電池を交換すると、カメラの設定が以下のように初期状態になります。それ以外は、交換する前と変わりません。

ストロボモード	オートポップアップ／自動発光
赤目軽減機能	なし
ワイヤレス制御	なし
ハイスピードシンクロ	なし
ドライブモード	1コマ撮影
電子音	鳴る
時刻	0:00
日付／時刻の写し込み	なし

撮影可能フィルム本数

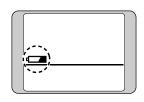
［24枚撮りフィルム］

使用温度	20℃	−10℃
一般撮影	約50本	約30本
ストロボ撮影［使用率50%］	約17本	約10本
ストロボ撮影［使用率100%］	約12本	約5本
バルブ撮影	約5時間	約1時間

✍メモ

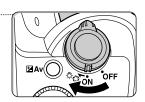
- 新品のリチウム電池「CR2」で、当社試験条件による。
- 撮影可能フィルム本数は、使用条件によって変わりますのでご注意ください。
- 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、撮影できるフィルム本数が少なくなります。
- 同梱されている電池は、サンプル用の電池のため、上記のフィルム本数を撮影できないことがあります。
- 海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。
- 「単3バッテリーグリップBG-20」を使用した場合の撮影可能フィルム本数については、127ページをご覧ください。

電池が消耗した場合

電池が消耗すると、電池消耗警告［電池マーク］が点灯します。早めに電池交換の準備をしてください。

メモ

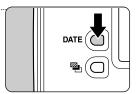
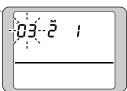
- 電池の交換のしかたについては23ページをご覧ください。
- 電池マーク［電池マーク］が出たままでも、シャッターがきれれば露出に問題はありません。
- 表示パネルの電池消耗警告［電池マーク］が点滅になると、ファインダー内表示は消え、撮影できなくなります。
- 長期間カメラを使用していない場合、新品電池に交換しても表示パネルに電池消耗警告［電池マーク］が表示されることがあります。電源を入れなおし、シャッターボタンを半押ししてみてください。［電池マーク］の表示が消えれば、そのままお使いになれます。

Chapter 3
電源を入れます

1 電源レバーを［ON］の位置に合わせると電源が入ります［電源ON］。［OFF］の位置に合わせると電源が切れます。［電源OFF］

メモ
- カメラを使用しないときは、必ず電源をOFFにしてください。
- 表示パネルに［電池］マークが出ているときは、電池が消耗していますので、電池を交換してください。3Vリチウム電池［CR2］2本を使用します。
- 電池を抜くと時刻の修正が必要となりますので、電池消耗時以外は、電池を抜かないでください。
- 電源レバーを［照明/プレビュー］に合わせると、表示パネルの照明が約10秒間点灯します。また同時にプレビュー表示（被写界深度）も確認できます。プレビュー表示については100ページをご覧ください。
- 表示パネルの照明は、カスタムファンクションで、暗い場所で自動的につくようにしたり、あるいは点かないように設定することができます。カスタムファンクションの設定については、134、141ページをご覧ください。

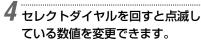
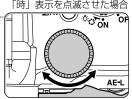
Chapter 4

日付や時刻を修正します

1 電源を入れ、DATEボタンを押すと、Tv（シャッター速度）・Av（絞り値）表示が「年月日」の表示に切り替わります。

2 DATEボタンを3秒間押し続けると、「年月日」の「年」表示が点滅します。

3 DATEボタンを一回押すごとに点滅表示が［年→月→日→時→分］の順に移動します。

修正したい表示を点滅させてください。

「時」表示を点滅させた場合

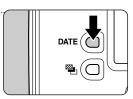
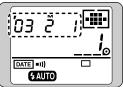
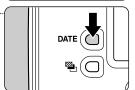
4 セレクトダイヤルを回すと点滅している数値を変更できます。

右側に動かすと数値は進み、左側に動かすと戻ります。

5 数字を修正後、DATEボタンを押すと、修正した数字が確定し、次の表示が点滅します。

6 ［分］を確定してからDATEボタンを押すと、Tv・Av表示に戻ります。

メモ

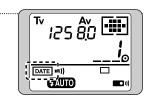
- 電池を入れた後には必ず日付と時刻の設定をしてください。
- 電池を入れ直すと、時刻が0:00にリセットされますので、必ず時刻の修正をしてください。日付は電池を取り外す前の設定が記憶されています。電池を入れ直した後にDATEボタンを押すと、すぐに日付・時刻の修正ができる状態になります。
- 使用可能温度は約50℃〜−10℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- 高感度フィルム［ISO 1000以上］を使ったときは、写し込まれる文字がにじむことがあります。
- ISO50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- 修正途中［点滅表示中］は、シャッターをきっても日付や時刻は写し込まれません。

Chapter 5
日付や時刻を写し込みます

1
DATEボタンを押します。

2 表示パネルの「Tv／Av」表示が「日付／時刻」表示に切り替わります。

3 「日付／時刻」表示が出ている間にDATEボタンを押して、写し込みたい表示を選びます。

例えば2003年2月1日、14時30分の場合は、下図のように表示が変わります。

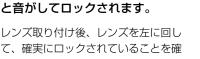
4 **シャッターボタンを半押しするか、セレクトダイヤルを操作すると、表示が「Tv／Av」表示に戻ります。**

【------】（写し込みなし）以外を選んでいるときは、表示パネルに DATE が表示されます。

メモ

- 電源が切れていると表示の切り替えはできません。
- 表示パネルに表示されている日付や時刻が写真に写し込まれます。
- 日付や時刻を写し込みたくない場合は、【------】を表示させます。
- 表示パネルの【M】は「月」の位置を示しています。
- 規定枚数を超えたコマには、日付や時刻が正しく写し込まれません。
- 電池を入れ直すと、時刻が0:00にリセットされ、写し込みの設定も【------】（写し込みなし）に設定されます。

Chapter 6
レンズを取り付けます

1 図の①と②のカバーを外します。

2 カメラとレンズの赤点を合わせ、レンズを右に回すと「カチッ」と音がしてロックされます。

レンズ取り付け後、レンズを左に回して、確実にロックされていることを確認してください。

3 図のように矢印部分を内側に押すとレンズキャップが外れます。

4 レンズを外すときは、レンズ取り外しボタンを押しながらレンズを左へ回してください。

✍メモ

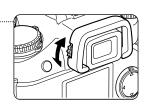
- ①のカバーは工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。別売りアクセサリーとしてロック機構付きの「ボディーマウントキャップK」もあります。
- レンズの着脱は、不用意なレンズの動きを防ぐため、電源OFFで行なってください。
- 外したレンズは、マウント周辺を傷付けないため、カメラに取り付く面を上にして置いてください。
- 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。
- カメラやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

Chapter 7

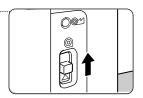
ファインダーの視度を調整します

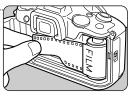
ファインダーを視力に合わせて調整します。

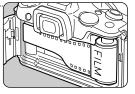
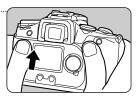
1 **カメラを明るい方へ向け、視度調整ダイヤルを左右に回して、ファインダー内の測距点 [::::] がはっきり見える位置に調整します。**

✍メモ

- 視度は-2.5～+1.5 m^{-1}（毎メートル）の範囲で調整できます。

Chapter 8
フィルムを入れます

1 裏ぶた開放レバーを上げて裏ぶたを開けます。

2 レンズをしっかりと持ち、フィルムの凹部を下にして先に入れ、次に上側を入れます。

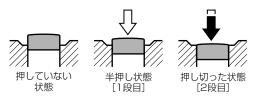
3 シャッター幕に触れないようにフィルムを引き出します。

4 フィルム先端をオレンジ色のフィルム先端マーク（図の　　　部分）の範囲内に合わせます。

フィルム先端を、先端マークより奥に入れすぎたり、手前の位置に置くと、きちんと巻き上がりません。

5 裏ぶたを閉め、電源をONにすると、フィルムが1枚目まで進みます。

6 表示パネルに E が点滅すると、フィルムがきちんと巻き上がっていませんので、裏ぶたを開けて、もう一度入れなおしてください。

メモ

- カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。
- ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルムですが、DX以外のフィルムの場合は、126ページをご覧になり、フィルム感度を設定してからお使いください。
- フィルムを入れるときは、直射日光が当たらないところで行なってください。
- 赤外線フィルムは使用できません。フィルム検知に赤外光を利用しているため、感光の恐れがあります。

Chapter 9
シャッターボタンの操作

シャッターボタンは2段階になっています。

シャッターボタンを半押しすると［1段目まで押し込む］、ファインダー内や表示パネルの表示が表示され、オートフォーカスが働きます。さらにシャッターボタンを押し込む［2段目まで押し込む］と撮影できます。

✍メモ

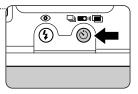
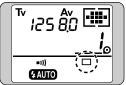
- 手ぶれを防ぐため、シャッターボタンはゆっくり押し込んでください。
- フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押してみて、どこまで押し込むと半押しになるのか、感覚をつかんでおいてください。
- ファインダー内表示は、シャッターボタンを半押し後、指を離しても約10秒間表示されたままになります。なお、シャッターボタンの半押しを続けると、表示は継続します。

2 基本的な使い方［撮影］

Step 1

1コマ撮影にします

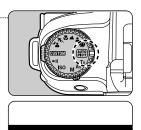
1 ドライブボタンを押して、□を表示させます。

✍メモ

- シャッターボタンを押し続けても1度だけ撮影される、最も一般的なモードです。
- ドライブボタンのその他の機能については54ページをご覧ください。

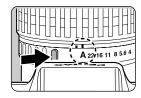
Step 2
オートピクチャーモードに合わせます

このモードは、最も簡単な露出モードで、カメラが自動的に露出合わせをしますので、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

1 モードダイヤルを回して AUTO PICT に合わせます。

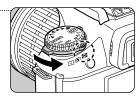
オートピクチャーモードでは、写すものまでの距離などにより、5つのピクチャーモード（標準 ☺ ・人物 [人物] ・風景 [風景] ・近接 [近接] ・動体 [動体])の中から最適なピクチャーモードが自動的に選択されます。

標準モードが設定された場合

メモ

- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを A 位置に合わせます。
- オートピクチャーモードは、FA J・FA・Fレンズでのみ可能です。Aレンズでは、標準モード ☺ 固定となります。

Step 3

測光方式を分割測光にします

分割測光に設定すると、画面を16箇所に分割して明るさを設定するので、逆光で人物が暗くなってしまうような条件でも、人物が暗くならないように自動的に補正されます。

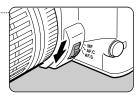
1 測光モードレバーを [分割測光マーク] に合わせます。

✍メモ

- 測光方式には、分割測光の他に中央重点測光とスポット測光方式があります。他の測光方式については88ページをご覧ください。

Step 4

オートフォーカスにします

オートフォーカスでは、シャッターボタンを半押しするだけで自動的にピント合わせが行なわれます。

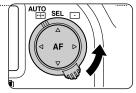
1 フォーカスモードレバーを AF.S に合わせます。

✍メモ

- ピント調節には、AF.Sの他に次の方法が用意されています。
  - ・ MF：手動でピントを調整します。
  - ・ AF.C：被写体にピントを合わせ続けます。

  その他のピント調整については91ページをご覧ください。

Step 5
測距点をオートにします

写したいものが中央になくても、自動的にファインダー内の測距点（11点）の最適な位置でピントが合うように調整します。

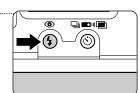
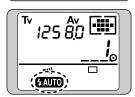
1 測距点切り替えレバーを [AUTO] に合わせます。

ファインダーの11個の測距点がある内側が自動でピントの合う範囲です。

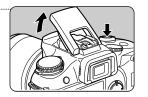
ピントの合う範囲

メモ

- 測距点の設定には、 [AUTO]の他に11点の測距点から任意の位置でピントを調整する方法、測距点を中央に固定する方法が用意されています。他の測距点の設定については96～97ページをご覧ください。
- シャッターボタンを半押しにすると、ピントが合った位置の測距点が赤くスーパーインポーズ表示されます。カスタムファンクションでスーパーインポーズ表示しないように設定することもできます。カスタムファンクションの設定については、134、138ページをご覧ください。

Step 6
ストロボオートポップアップにします

1 ストロボモードボタンを押して ⚡AUTO を表示させます。

2 ストロボが必要なときは、シャッターボタンを半押しすると、自動的に内蔵ストロボが上がります。

メモ

- 表示パネルに ⚡AUTO が表示されている場合、ストロボは必要なときだけ発光します。外付けストロボについても同様です。
- 電源をOFFにする以外、ストロボは自動的に下がりませんので、必要ないときはストロボ上部を押して収納してください。
- オートポップアップが選択できるのは、露出モードがオートピクチャーとピクチャーモードの場合だけです。
- ストロボモードボタンの機能については104ページをご覧ください。
- ストロボが上がった後にストロボボタン ⚡ を押すと、表示パネルの ⚡AUTO が消え、常にストロボが発光する強制発光モードになります。

Step 7
ズームレンズの使い方

ズームレンズを使えば写したい物を大きくしたり、小さくしたり自由に変えることができます。好みの大きさに合わせて撮影してください。

1 ズームリングを右に回すと望遠へ、左に回すと広角になります。

✍メモ

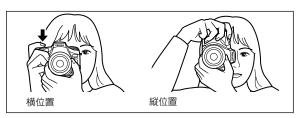
- レンズの焦点距離表示の数字を小さくすると、写る範囲が広い広角側に、大きくすると、遠いものを大きく写す望遠側になります。
- このカメラでは、パワーズーム、イメージサイズ指定、ズームクリップ、露光間ズームは使用できません。

望遠側

広角側

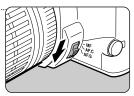
Step 8
カメラの構え方

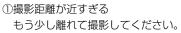
撮影するときは、カメラの構え方が大切です。
・カメラを両手でしっかりと持ってください。
・シャッターボタンは指の腹で静かに押します。

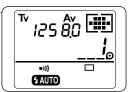
横位置　縦位置

メモ

- 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させると効果があります。
- 個人差はありますが、一般的には焦点距離の逆数が手持ちの限界シャッター速度とされています。たとえば、焦点距離が50mmでは1／50秒、100mmでは1／100秒などです。これ以下のシャッター速度になる場合には、なるべく三脚を使用してください。
- 望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

Step 9
撮影します

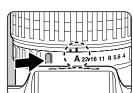
1 フォーカスモードレバーが AF.S になってることを確認します。

2 シャッターボタンを半押しします。

ピントが合うと、[●] が点灯します。
[●] が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。

①撮影距離が近すぎる
　もう少し離れて撮影してください。
②オートフォーカスの苦手な物
　101ページをご覧ください。

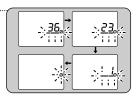
3 ファインダーや表示パネルで、ピクチャーモードの種類やシャッター速度・絞り値を確認します。

4 シャッターボタンを押し込んで撮影します。

✍メモ

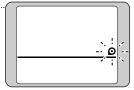
- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを A 位置に合わせます。
- 撮影すると自動的にフィルムが巻き上がり、枚数表示が1つ進みます。
- ピントが合うまでシャッターは切れません。
- [●] が点灯している間は、ピントがその位置で固定されます。別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して再度押し直してください。

Step 10

フィルムの自動巻き戻し

1 フィルムが終了すると、自動的に巻き戻しが始まります。

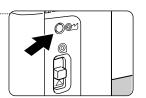
[___◎] の [___] 部分が点滅し、枚数表示が減っていきます。

2 巻き戻しが終了すると、表示パネルの [◎] が点滅し、撮影枚数の表示が消えます。

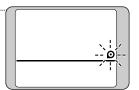
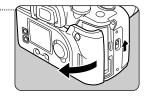
3 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

✍メモ

- 巻き戻し中は裏ぶたを開けないでください。
- フィルムは直射日光が当たらないところで取り出してください。
- 規定枚数になっても、まだ撮影が続けられるときは、フィルムが最後まで進んでから巻き戻しが行なわれます。
- 巻き戻し時間は24枚撮りフィルムで約13秒です。
- フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。大事な写真の場合は、規定枚数を撮り終わった時点で途中巻き戻し［51ページ］を行ない、フィルムを交換してください。
- カスタムファンクションでフィルムの自動巻き戻しをしないように設定することもできます。カスタムファンクションの設定については134、139ページをご覧ください。

Step 11
フィルムの途中巻き戻し

フィルムの規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときに使います。

1 電源レバーを［ON］に合わせ、ストラップ留め具の突起部分で、カメラの側面にある途中巻き戻しボタンを押します。

2 途中巻き戻しが始まります。

巻き戻しが終了すると表示パネルの ⊙ が点滅し、撮影枚数表示が消えます。

3 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

✍メモ

- 途中巻き戻しボタンを傷つけることがありますので、できるだけストラップ留め具以外は使わないでください。やむを得ない場合は、ボールペンの先などで、押し込み過ぎに気を付けて行なってください。

3 応用的な使い方

ドライブモードを切り替えます

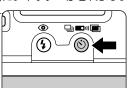
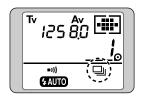
ドライブモードの種類

このカメラには、図のように5種類のドライブモードがあります。

（1コマ撮影）	シャッターボタンを押し込むと、1回だけシャッターがきれます。最も一般的なドライブモードです。[40ページ]
（連続撮影）	シャッターボタンを押し込んでいる間、連続的にシャッターがきれます。[55ページ]
（セルフタイマー）	セルフタイマー撮影です。[56ページ]
（リモコン撮影）	カメラから離れた所から撮影できます。[59ページ]
（多重露出）	前の写真に、写真を重ねて撮影します。[61ページ]

連続撮影

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続的にシャッターがきれます。

1 ドライブボタンを押して[連続撮影マーク]を表示させます。

①シャッターボタンを半押しにして、写したいものにピントを合わせます。
②シャッターボタンを押し続けます。
③シャッターボタンを指から離すと、連続撮影を終了します。

メモ

- フォーカスモードレバーが［AF.S］（シングル）に設定されているときは、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- フォーカスモードレバーが［AF.C］（コンティニアス）に設定されているときは、シャッターが1回きれるごとに、その都度ピント合わせが行われます。ただし、この場合、ピントが合っていなくてもシャッターがきれるのでご注意ください。
- 内蔵ストロボを使用している場合は、充電が完了してからシャッターがきれます。ただし、カスタムファンクションで、充電中でもシャッターがきれるように設定することもできます。カスタムファンクションの設定については134、138ページをご覧ください。

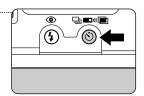
セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。シャッターボタンを押し込むと、約12秒後にシャッターがきれます。

1 カメラを三脚などで固定します。

✍メモ

- 大型の三脚をカメラに取り付けた場合、レンズが雲台に接触することがあります。大型三脚をご使用の際は、付属の「三脚用補助板」の穴に三脚の固定ネジを通し、カメラと雲台の間に挟んで取り付けてください。

2 ドライブボタンを押して[セルフタイマー]を表示させます。

3 写したいものが画面に入っているかファインダーで確認し、シャッターを半押しします。

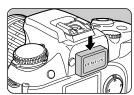
ピントが合うと、[●]が点灯します。

4 シャッターボタンを押し込みます。

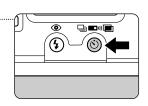
セルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタンを押しきった後、約12秒後にシャッターがきれます。

メモ

- セルフタイマーの電子音を消すこともできます。詳しくは、87ページをご覧ください。
- マニュアル露出以外の露出モードでセルフタイマー撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能［86ページ］や付属のファインダーキャップをご利用ください。
- ファインダーキャップなどのアクセサリーの取り付けは、アイカップFMの片側を横に引っ張り、外してから行ないます。

アイカップを取り外す

ファインダーキャップをセットする

5 撮影終了後にドライブボタンを押します。

セルフタイマー撮影が解除され、1コマ撮影に戻ります。

メモ

- セルフタイマーが作動中でも、ドライブボタンを押すことで解除できます。

ミラーアップ機能

シャッターボタンを押しきった後、ミラーをアップした状態で約2秒後にシャッターがきれるように設定できます。ミラーアップ機能を利用することで、ミラーの作動によるぶれを軽減できます。ミラーアップで撮影するときは、以下の手順で操作してください。

1. カスタムファンクションNo.［CF12］で設定番号［2］を設定します。
   カスタムファンクションの設定のしかたは、134、140ページをご覧ください。
2. 撮影するときは、ドライブボタンを押して[セルフタイマーアイコン]を表示させます。
3. 撮影するものにピントを合わせ、シャッターボタンを押しきります。
   ミラーをアップした状態で2秒後にシャッターがきれます。ミラーアップ直前の露出値でAEロックされます。

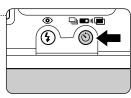
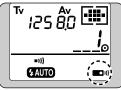
リモコン撮影

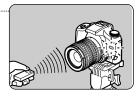
カメラから離れた所から撮影ができます。リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後に撮影できます。

1 カメラを三脚などで固定します。

メモ
- 大型の三脚をカメラに取り付けた場合、レンズが雲台に接触することがあります。大型三脚をご使用の際は、付属の「三脚用補助板」の穴に三脚の固定ネジを通し、カメラと雲台の間に挟んで取り付けてください。

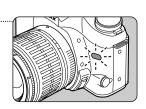
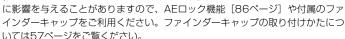
2 ドライブボタンを押して[リモコンマーク]を表示させます。

メモ
- 通常の設定では、リモコン操作でのピント合わせは行なわれません。あらかじめカメラ側でピント合わせをしてからリモコン操作をしてください。
- カスタムファンクションで、リモコン操作でのピント合わせをするように設定することもできます。カスタムファンクションの設定については134、141ページをご覧ください。

3 リモコンをカメラに向けて、リモコンのシャッターボタンを押します。

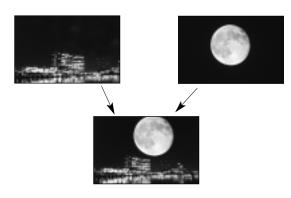
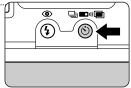
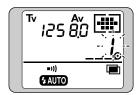
シャッターボタンを押してから、3秒後に撮影されます。

ドライブモードを切り替えます

✍メモ
- リモコン撮影中は、ランプの点滅と電子音でお知らせます。
- 電子音を消すこともできます。詳しくは87ページをご覧ください。

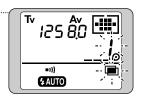
4 撮影が終了すると、セルフタイマーランプが2秒間点灯し、その後点滅に戻ります。

撮影終了後、ドライブボタンを押すと、リモコン撮影が解除され、1コマ撮影に戻ります。

✍メモ
- リモコン撮影できる距離はカメラ正面から約5mです。
- 露出モードをバルブに設定［84ページ］してリモコン撮影を行なうと、リモコンのシャッターボタンを押している間、バルブ撮影ができます。
- マニュアル露出以外の露出モードでリモコン撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能［86ページ］や付属のファインダーキャップをご利用ください。ファインダーキャップの取り付けかたについては57ページをご覧ください。

- カスタムファンクションでリモコンの作動時間を3秒から即撮影に変更できます。カスタムファンクションの設定については134、140ページをご覧ください。
- リモコン撮影を始動後に中止したいときは、ドライブボタンを押すか、電源をOFFにしてください。
- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- ストロボ充電中はリモコン操作はできません。
- リモコンのシャッターボタンを押しても内蔵ストロボのオートポップアップは働きません。
- リモコン撮影モードのまま約5分間放置すると、自動的に1コマ撮影に戻ります。
- リモコン用電池では、約30,000回リモコン送信することができます。電池の交換については当社お客様窓口にお問い合わせください。（交換は有料になります）

多重露出

フィルムの同じコマに、複数の写真を重ね合わせて撮影することができます。例えば下の写真のように、暗い夜景に明るい月の写真を重ね合わせるなどの合成写真を撮ることができます。

1 ドライブボタンを押して［▣］を表示させます。

表示パネルの撮影枚数が点滅します。

2 シャッターボタンを押し込み、1枚目の写真を撮影します。

1枚目の撮影が終わると、表示パネルの［▣］と撮影枚数が点滅します。

メモ

- 3枚以上の写真を重ねる場合は、再度ドライブボタンを押して撮影枚数だけを点滅させ、手順2からの操作をくり返します。

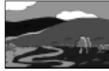
3 シャッターボタンを押し込み、重ね合わせる写真を撮影します。

撮影が終わると、フィルムが巻き上がり、1コマ撮影に戻ります。

メモ

- 電源をOFFにしても、多重露出モードは途中解除されません。解除するときは電池をいったん抜いてください。その際時刻がリセットされますので、必ず時刻の修正を行なってください。

オートブラケットモードに設定します

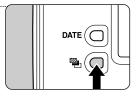
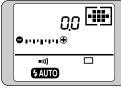
シャッターボタンを押したときに、露出が違う写真を連続して撮影できます。1枚目は補正なしの写真、2枚目はアンダー露出（マイナス補正）の写真、3枚目はオーバー露出（プラス補正）の写真を撮影します。
マイナス側、プラス側の露出補正値の幅は、±0.3、±0.5および±1段階（EV）の3種類が設定できます。

標準露出

アンダー露出

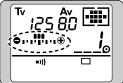
オーバー露出

✍メモ

- 補正量が小さい場合、ネガフィルムではほとんど効果が得られませんのでご注意ください（特にネガカラーのオートプリント仕上げの場合）。

1 オートブラケットボタンを押して 0.0 とバーグラフを表示させます。

オートブラケットモードに設定します

2 **オートブラケットボタンを押して、露出補正値の幅を選びます。**
オートブラケットボタンを離すごとに、露出補正値の幅が変化します。

3 **シャッターボタンを半押しにすると、ファインダー内と表示パネルにバーグラフが表示され、現在の補正値が表示されます。**

4 **シャッターボタンを押し続けます。**
連続して1枚目は補正なし、2枚目はマイナス側、3枚目はプラス側にそれぞれ補正して、3枚の写真が撮影されます。
撮影終了後、シャッターボタンから指を離すと、通常の1コマ撮影に戻ります。

メモ

- 「連続撮影」と組み合わせた場合、シャッターボタンを押し続けている間は連続してオートブラケット撮影が行なわれます。
- 「セルフタイマー撮影」「リモコン撮影」と組み合わせた場合、3枚目の撮影が終了すると、通常の1コマ撮影に戻ります。

- 「多重露出」と組み合わせた場合、シャッターボタンを押し続けていると、補正なし、マイナス側の順に多重露出が行なわれた後、フィルムが巻き上がり、通常のオートブラケット撮影が行なわれます。1回目と2回目のシャッターをそれぞれきった後に指を離して、その都度ドライブボタンを押して撮影すると、同じコマに補正なし、プラス側・マイナス側それぞれの補正で多重露出撮影が行なわれます。このとき、3回目のシャッターをきった後に、通常の1コマ撮影に戻ります。
- フォーカスモードレバーが［AF.S］（シングル）に設定されているときは、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- フォーカスモードレバーが［AF.C］（コンティニアス）に設定されているときは、シャッターが1回きれるごとに、その都度ピント合わせが行なわれます。ただし、この場合、ピントが合っていなくてもシャッターがきれるのでご注意ください。
- 撮影途中でシャッターボタンから指を離しても、約20秒間は設定値が保持され、次の補正値で撮影できます。この場合、各コマ毎にピント合わせが行なわれます。約20秒を過ぎると1枚目からの撮影状態に戻ります。
- 内蔵ストロボあるいは、外付けストロボ（TTL、P-TTLオートの場合のみ）とオートブラケット撮影を併用することで、ストロボの光量だけを連続的に変化させることができます。ただし、外付けストロボでは、カメラのシャッターボタンを押したまま3コマ連続に撮影すると、充電完了前に2コマ目、3コマ目が撮影されてしまうことがありますので、必ず1コマごとに充電完了を確認してから撮影してください。
- カスタムファンクションでオートブラケットの撮影順序を変更できます。カスタムファンクションの設定については134、136ページをご覧ください。
- カスタムファンクションでオートブラケット撮影の終了後に、自動的にオートブラケット撮影が解除されないように設定できます。カスタムファンクションの設定については134、137ページをご覧ください。

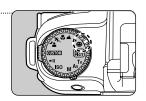
オーバー方向またはアンダー方向のみの写真を撮るには

露出補正機能［85ページ］と組み合わせることで、オーバー方向、またはアンダー方向のみのオートブラケット撮影ができます。どちらの場合も、露出補正値を中心としたオートブラケット撮影が行なわれます。

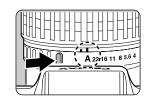
ピクチャーモードを切り替えます

オートピクチャー以外に、ピクチャーモードには以下の6つのモードがあります。各モードについては68～73ページをご覧ください。

オートピクチャーモード AUTO PICT	写す対象の大きさなどによって自動的に適切なピクチャーモードが選択されます。[41ページ]
標準モード	一般的な撮影をするときにこのモードを使うと便利です。[68ページ]
人物モード	人物撮影をするときにこのモードを使うと便利です。[69ページ]
風景モード	風景撮影をするときにこのモードを使うと便利です。[70ページ]
近接モード	花などを近くで撮影をするときにこのモードを使うと便利です。[71ページ]
動体モード	動きの速い物を写すときにこのモードを使うと便利です。[72ページ]
夜景モード	ストロボを利用して夜景を生かした人物撮影をするときにこのモードを使うと便利です。[73ページ]

1 モードダイヤルを回して希望のモードの位置に合わせます。

2 ファインダー内に選択したモードが表示されます。

✍メモ

- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを A 位置に合わせます。

露出警告

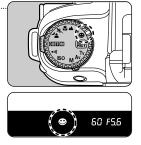
写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度や絞り値表示が点滅します。明るすぎるときは、NDフィルターをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

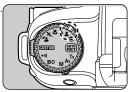
標準モード ☻

一般的な撮影をするときにこのモードを使うと便利です。

1 **モードダイヤルを回して ☻ の位置に合わせます。**

ファインダーと表示パネルでシャッター速度・絞り値を確認してください。ファインダーには ☻ も表示されます。

人物モード[人物アイコン]

人物撮影をするときにこのモードを使うと便利です。

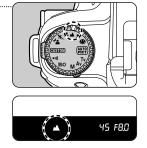
1 **モードダイヤルを回して[人物アイコン]の位置に合わせます。**

ファインダーと表示パネルでシャッター速度・絞り値を確認してください。ファインダーには[人物アイコン]も表示されます。

メモ

- このモードで人物撮影すると、望遠系のレンズではバックをぼかすことができます。一方、広角系のレンズでは、集合写真に便利なように比較的広い範囲にピントが合うようになっています。

風景モード▲

風景撮影するときにこのモードを使うと便利です。

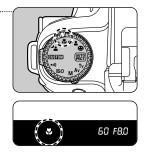
1 **モードダイヤルを回して▲の位置に合わせます。**

ファインダーと表示パネルでシャッター速度・絞り値を確認してください。ファインダーには▲も表示されます。

メモ

- このモードで風景撮影をすると、近くから遠くまで風景全体にピントの合った写真が撮れます。

近接モード

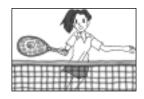
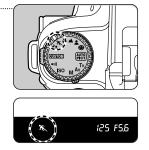
花などを近くで撮影するときに使うと便利です。

1 モードダイヤルを回して の位置に合わせます。

ファインダーと表示パネルでシャッター速度・絞り値を確認してください。ファインダーには も表示されます。

メモ

- このモードで撮影を行うと、ピントの合う範囲が広くなっていますので、シャープな写真が撮れます。

動体モード

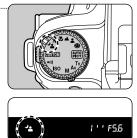
動きの速い物を写すときに使うと便利です。

1 **モードダイヤルを回して の位置に合わせます。**

ファインダーと表示パネルでシャッター速度・絞り値を確認してください。ファインダーには も表示されます。

メモ

- このモードで撮影すると、動きの速いものでもぶれずに動きを止めてはっきりとした写真を撮ることができます。

夜景モード

ストロボを利用して夜景を生かした人物撮影をするときに使うと便利です。

1 モードダイヤルを回して の位置に合わせます。

ファインダーと表示パネルでシャッター速度・絞り値を確認してください。ファインダーには も表示されます。

メモ

- ストロボ撮影で、写すものが暗い場合、シャッター速度が1秒まで下がりますので、背景を生かしたストロボ撮影ができます。
- 夜景モード撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、三脚などに固定してください。また、写される人が動いてしまっても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。
- ストロボを使用しない場合の制御は、標準モードの場合と同様です。
- 内蔵、あるいは外付けストロボの充電完了を確認してから撮影してください。
- 大型の三脚をカメラに取り付けた場合、レンズが雲台に接触することがあります。大型三脚をご使用の際は、付属の「三脚用補助板」の穴に三脚の固定ネジを通し、カメラと雲台の間に挟んで取り付けてください。

いろいろな露出モードを選びます

絞りとシャッター速度の効果について

写したいもの（被写体）の適正露出は、シャッター速度と絞り値の組み合わせで決まります。ただし、被写体の適正露出を決めるときのシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことで、写真の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムにあたる時間を長くしたり、短くしてフィルムにあたる光の量を調整しています。

●シャッター速度を遅くする
シャッターの開いている時間が長くなるため、写したいものが動いていれば、ブレとしてフィルムに記録されます。
川や滝、波などの動きを意図的に遅いシャッター速度で撮ることで、動感のある写真になります。

●シャッター速度を速くする
動きのあるものでも動きを止めて写すことができます。
写したいものが動いてなくても、シャッターをきるときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐことができます。

絞りの効果

絞りは、光がレンズを通るときの光束（光の太さ）を広くしたり、狭めたりしてフィルムにあたる光の量を調整します。

●絞りを開いて光束を広くする
ピントを合わせたものに対して、その前後のもののボケが大きくなります。例えば、風景の中で人物を撮影すると、ピントを合わせた人物の前後にある風景のぼけを大きくし、人物だけが浮き上がる効果があります。

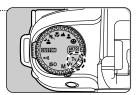
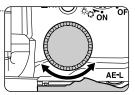
●絞りを絞って光束を狭くする
ピントの合う範囲が前後に広がります。例えば、風景の中で人物を撮影すると、ピントを合わせた人物の前後にある風景までピントを合わせることができます。

✍メモ

- 写したいもののある部分にピントを合わせると、その前後のものにもピントがあう範囲があります。このピントが合う範囲を被写界深度といいます。
- 被写界深度（ピントの合う範囲）は、絞りを絞り込むほど深く（広い範囲にピントが合う）なります。
- その他に、広角レンズほど、また写したいものが遠くなるほど被写界深度は深くなります。ズームレンズには、機構上被写界深度の目盛りは付いていません。

シャッター優先自動露出を利用する

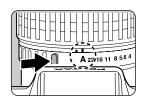
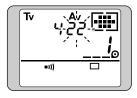
明るさに応じて絞りが自動的に変わります。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を出すのに適しています。シャッター速度の効果については、74ページをご覧ください。

1 モードダイヤルを回して Tv の位置に合わせます。

2 セレクトダイヤルでシャッター速度を設定します。

3 ファインダーと表示パネルで絞り値とシャッター速度を確認します。

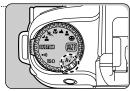
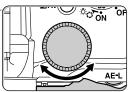
メモ

- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを A 位置に合わせます。
- ファインダーと表示パネルのシャッター速度は、電源がONであれば常に表示されます。

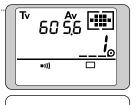
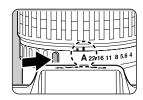
露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が点滅します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば撮影できます。
なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、シャッター速度を変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、NDフィルターをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

絞り優先自動露出を利用する

明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わります。ピントの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。絞りの効果については、75ページをご覧ください。

1 モードダイヤルを回して Av の位置に合わせます。

2 セレクトダイヤルで絞りを設定します。

3 ファインダーと表示パネルで絞り値とシャッター速度を確認します。

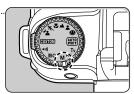
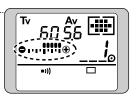
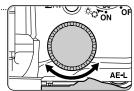
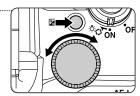
60 F5.6

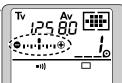
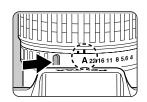
✍メモ

- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを A 位置に合わせます。
- ファインダーと表示パネルの絞り値は、電源がONであれば常に表示されます。

露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示が点滅します。明るすぎるときは絞りを小絞り側［数字の大きい方］に、暗すぎるときは絞りを開放側［数字の小さい方］にして点滅が止まれば撮影できます。
なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外ですから、絞りを変えても適正露出は得られません。
明るすぎるときは、NDフィルターをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

マニュアル露出を利用する

常に同じシャッター速度と絞りの組み合わせで撮影する場合や、意図的に露出オーバー［明るい写真］や露出アンダー［暗い写真］にするときに使います。

1 モードダイヤルを回して M の位置に合わせます。

2 ファインダーと表示パネルにバーグラフが表示されます。

3 セレクトダイヤルでシャッター速度を設定します。

4 AVボタンを押しながらセレクトダイヤルで絞り値を設定します。

5 ファインダーと表示パネルで絞り値とシャッター速度を確認します。

✍メモ

- 絞りリングの付いたレンズをご使用の場合、オートロックボタンを押しながら、絞りを A 位置に合わせます。

ファイダーと表示パネルのバーグラフの見かた

バーグラフの ▮ が中心にあれば適正、−側に並んでいるときは露出不足、＋側に並んでいるときは露出オーバーです。±2段階（EV）を超えた場合は、⊖ または ⊕ が点滅します。

＋1段階（EV）オーバー

カメラの準備と基本操作
基本的な使い方［撮影］
応用的な使い方
その他について

✍メモ

- 表示パネルのシャッター速度と絞り値は、電源がONであれば常に表示されます。
- マニュアル露出では、AEロックや露出補正はできません。
- 一般のネガカラーフィルムを使って撮影する場合は、「やや露出オーバー」「やや露出アンダー」で撮影しても、写真の仕上がりにはほとんど影響ありません。これはネガカラーフィルムの、露出に対する寛容度（ラチチュード）が広いためです。ただし、リバーサル（スライド用）フィルムの場合はラチチュードが狭いため、意図的に露出オーバー、あるいは露出アンダーにするとき以外は、必ず適正露出になるように、絞りとシャッター速度をあわせる必要があります。

露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、表示パネルとファインダー内のシャッター速度表示と絞り値表示が点滅し、測光範囲外をお知らせます。シャッター速度や絞りを変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、NDフィルターをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

低速シンクロについて

夕景などを背景に人物撮影をするとき、低速シンクロを利用すると人物も背景もきれいに写せます。低速シンクロ撮影は、73ページの夜景モードを利用する方法が最も簡単ですが、マニュアル露出やシャッター優先自動露出でも可能です。
低速シンクロは、内蔵ストロボでも外付けストロボでも同様にご利用いただけます。

●マニュアル露出の場合

1. ストロボボタンを押して、内蔵ストロボを上げます。[外付けストロボを使用する場合は、外付けストロボの電源を入れます]
2. マニュアル露出にします。
3. 適正露出になるようにシャッター速度［1／125秒以下の低速］と絞りを選びます。
4. 内蔵あるいは、外付けストロボの充電完了を確認してから撮影します。

●シャッター優先自動露出の場合

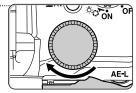
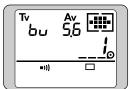
1. シャッター優先自動露出にします。
2. 適正露出になるようにシャッター速度［1／125秒以下の低速］を選びます。
3. ストロボボタンを押して、内蔵ストロボを上げます。[外付けストロボを使用する場合は、外付けストロボの電源を入れます]
4. 内蔵あるいは、外付けストロボの充電完了を確認してから撮影します。

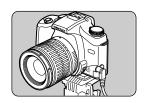
メモ

- 低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、三脚などに固定してください。また、写される人が動いてしまっても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。
- シャッター優先自動露出で低速シンクロ撮影をするときは、ストロボを準備する前に露出を合わせてください。背景が適正露出にならないことがあります。

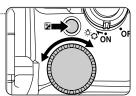
バルブで撮影します

花火や夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。

1 マニュアル露出のときに、セレクトダイヤルでシャッター速度を低速側に移動させ、表示パネルに bu を表示させます。

メモ

- バルブで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチCS-205」を使用してください。
- 新品のリチウム電池（常温）で、約5時間の長時間露出ができます。
- リモコン撮影を利用すると、リモコンのシャッターを押している間、バルブ撮影ができます。

露出を補正します

意図的に露出オーバー（明るい写真）や露出アンダー（暗い写真）で撮影できます。露出補正は、－3～＋3段階（EV）の範囲で、0.5段階（EV）ごとに設定できます。

1 AVボタンを押しながらセレクトダイヤルで補正値を設定します。

2 ファインダーと表示パネルで補正値を確認してください。補正中は ☒ が表示されます。

ファイダーと表示パネルのバーグラフの見かた

バーグラフの ▯ が－側にあれば露出アンダー、＋側は露出オーバーの方向になります。1目盛りが1/2段階（1/2EV）に相当します。

※1目盛は0.5段階［EV］

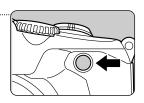
メモ

- 露出補正はマニュアル露出およびバルブでは利用できません。
- 電源をOFFにしたり、他の露出モードにしても露出補正は解除されません。
- 2段階（2EV）を超えた設定をした場合は、バーグラフの ▯ が一番左または、一番右の目盛りで点滅します。

AEロックを使います

AEロックは、撮影前の露出を記憶させる機能です。写したいものが小さく、適正な露出を得るのが難しいときや逆光撮影のときなどにお使いください。

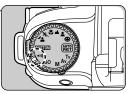
1 AEロックボタン AE-L を押すと、その時点の露出（明るさ）を記憶します。

もう一度押すと解除できます。

✍メモ

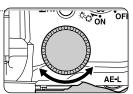
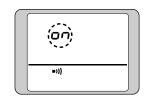
- AEロック中は、ファインダー内に ✱ が表示されます。
- AEロックボタン AE-L から指を離しても、20秒間は露出が記憶されています。AEロックボタンを押し続けたり、シャッターボタンを半押ししている間は露出が記憶され続けます。
- AEロックボタンを押すと、電子音が鳴ります。電子音が鳴らないようにすることもできます。[87ページ]
- AEロックボタンを押してもAEロックを行なわず、ピントを合わせるようにカスタムファンクションで設定することもできます。カスタムファンクションの設定については134、137ページをご覧ください。
- AEロック中はオートポップアップは働きません。⚡AUTO 表示も消えます。
- AEロックはマニュアル露出およびバルブでは利用できません。
- 焦点距離によって開放F値が変わるズームレンズでは、AEロック中でもズームを動かすことで、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変わります。ただし露光量は変わりませんので、AEロックをした時点での明るさで写真は撮影されます。

電子音の有無を切り替えます

ピントが合ったときやセルフタイマー、リモコン、AEロック時の電子音の有無を変更できます。

1 モードダイヤルを回して ■))) の位置に合わせます。

2 セレクトダイヤルを回して on （鳴る）または oFF （鳴らない）を選びます。

3 モードダイヤルを ■))) CUSTOM ISO 以外の位置に合わせます。

メモ

- モードダイヤルが ■))) CUSTOM ISO の位置では、シャッターがきれません。
- on を選択していると、表示パネルには常に ■))) が表示されます。

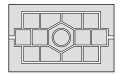
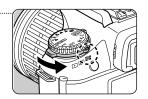
測光方式を設定します

ファインダー内のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。測光方式には、16分割測光、中央重点測光、スポット測光方式が用意されています。

分割測光を利用する

ファインダー内を16分割して測定されます。逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるのかが自動的に判断され、人物が暗くならないように補正されます。

メモ

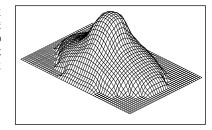
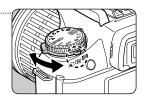
- 分割測光では、図のように画面内を16に分割して明るさが測定されます。

1 測光モードレバーを の位置に合わせます。

メモ

- FA J・FA・F・A以外のレンズでは、分割測光に設定しても中央重点測光になります。（カスタムファンクション［CF17］で、絞りA以外のレリーズ許可を設定した場合のみ使用可）

中央重点測光を利用する

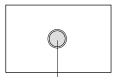
ファインダー中央部分に重点を置いて測光されます。露出を決めるときにカメラ任せではなく、経験的に補正をして決めるときなどに利用します。

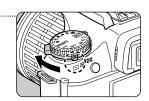
メモ

- 中央重点測光では、図のように高さが高い部分（中央部分）ほど感度が高くなります。逆光の場合でも自動補正が行なわれないため、経験的な判断をもとに露出を補正してください。

1 測光モードレバーを [◎] の位置合わせます。

スポット測光を利用する

ファインダー中央の限られた狭い範囲の明るさだけを測光します。写したいものが非常に小さく、適正な露出を得るのが難しいときは、AEロック機能と組み合わせて利用すると便利です。[86ページ]

メモ

- スポット測光では、図のようにファインダー中央の限られた狭い範囲の明るさだけを測光します。

スポット測光範囲

1 測光モードレバーを [•] の位置に合わせます。

ピントを合わせます

ピント調整について

ピント調整には、以下の3つの撮影方法が用意されています。

オートフォーカス

ピントを自動で調節します。オートフォーカスには、シャッターボタンを半押しにしてピントが合うと、その位置に固定するシングルモード（AF.S）と被写体に合わせて常にピントを調整するコンティニアスモード（AF.C）があります。[92～93ページ]

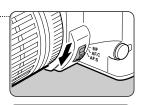
マニュアルフォーカス

ピント調整を手動で行います。[94ページ]

測距点の切り替え

被写体のピント調整位置を自動に設定したり、ファインダー内で指定した位置に設定したり、ファインダー中央に固定できます。[96～97ページ]

オートフォーカスのシングルモードを利用する

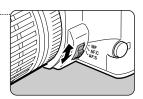
1 フォーカスモードレバーを AF.S の位置に合わせます。

2 ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態にします。

3 ピントが合うとファインダー内の合焦マーク ⬣ が点灯します。
（点滅すると、ピントは合っていません。）

メモ

- ⬣ が点灯している間は、ピントが固定（フォーカスロック）されます。別のものにピントを合わせるときは、いったんシャッターボタンから指を離してください。
- シングルモード（AF.S）に設定されているときは、ピントが合わない限りシャッターをきることができません。被写体に近づき過ぎている場合は、離れた位置から撮影してください。オートフォーカスの苦手な物［101ページ］の場合は、手動でピントを調整してください。[94ページ]

オートフォーカスのコンティニアスモードを利用する

1 フォーカスモードレバーを AF.C の位置に合わせます。

2 ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態にします。

3 ピントが合うとファインダー内の合焦マーク ● が点灯します。
（点滅すると、ピントは合っていません。）

✍メモ

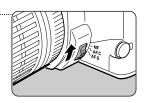
- コンティニアスモード（AF.C）では、カメラが被写体を動体と判断すると自動的に動体予測に切り替わります。
- コンティニアスモード（AF.C）では、ピントが合っていない状態でも、シャッターボタンを押しきるとシャッターがきれます。

手動でピントを調節する

手動でピントを調節するには、ファインダー内の合焦マーク⬣を利用する方法と、ファインダー内のマット面を利用する方法があります。

合焦マーク⬣を利用する

ファインダーの合焦マーク⬣を利用して、手動でピントを調整します。

1 フォーカスモードレバーをMFの位置に合わせます。

2 ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態で、レンズの距離リングを回してください。

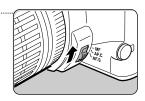
3 ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

（点滅すると、ピントは合っていません。）

✍メモ

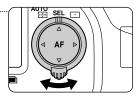
- 被写体がオートフォーカスの苦手な物［101ページ］に該当し、合焦マーク［●］が点灯しないときは、ファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカスをしてください。
- 電子音が鳴らないように設定できます。[87ページ]

マット面を利用する場合

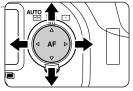
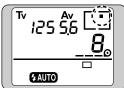
1 フォーカスモードレバーを MF の位置に合わせます。

2 ファインダーを覗きながら、ファインダー内の像が最もはっきり見えるようにレンズの距離リングを回してください。

任意の測距点を設定する

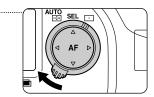
ファインダー内には11の測距点（オートフォーカスポイント）が表示されています。オートに設定［44ページ］していて、思った位置にピントが合わないときは、測距点を任意に設定できます。

2 測距点切り替えレバーを SEL に合わせます。

2 ファインダーを覗きながら、被写体の位置を確認します。

3 十字キーを押して、ピントを合わせたい位置に測距点を設定します。

十字キーを押した方向に、ファインダー内の測距点表示が赤く点灯（スーパーインポーズ）し、どの位置に設定したかが確認できます。
逆光などの条件で、スーパーインポーズが見づらい場合は、表示パネルの測距点表示で確認してください。

✍メモ
- 測距点の設定を解除し、カメラによる自動設定に戻すときは、測距点切り替えレバーを AUTO に合わせます。

測距点を中央に固定する

1 測距点切り替えレバーを [•] に合わせます

2 シャッターを半押しにすると、測距点が点灯している中央部にだけピントが合います。

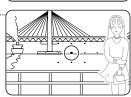
✍メモ
- 測距点の設定を解除し、カメラによる自動設定に戻すときは、測距点切り替えレバーを AUTO に合わせます。

フォーカスロックを利用する

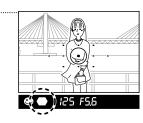
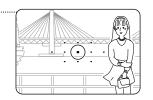
オートフォーカスでピントを調整するときに、ピントを合わせたいものが測距点の範囲外にあるときは、被写体にピントを合わせることができません。そのような場合、いったん測距点の範囲内で被写体にピントを合わせて固定し（フォーカスロック）、写真の構図を変えて撮影できます。

1 フォーカスモードレバーを AF.S に合わせます。

2 撮りたい写真の構図をファインダーで確認します。

ピントを合わせたいものがどの測距点の内側にも入っていないときにフォーカスロックします。

（例）人物にピントが合わずに背景にピントが合ってしまう。

3 ピントを合わせたい被写体をファインダーの中心にして、シャッターボタンを半押しします。

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク[⬣]が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります。（点滅すると、ピントは合っていません。）

4 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい写真の構図に戻します。

✍メモ

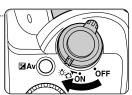
- 合焦マーク[⬣]が点灯している間は、ピントが固定（フォーカスロック）されます。
- フォーカスロックの状態で、ズームリングを回すとピントがずれることがあります。
- 電子音が鳴らないようにすることもできます。[87ページ]

プレビューを利用する

写したいもののある部分にピントを合わせると、その前後のものにもピントが合う範囲があります。このピントが合う範囲を被写界深度といいます。プレビューを利用すると、撮影するときにピントの合っている範囲（被写界深度）をファインダー内で確認することができます。

1 写したいものにピントを合わせます。

2 ファインダーを覗きながら、電源レバーを［☼⊘］に合わせます。

レバーを押している間、ファインダー内で被写界深度を確認できます。

メモ

- 電源レバーを［☼⊘］位置に合わせている間、ファインダー内の撮影情報の表示は消え、シャッターはきれなくなります。
- プレビューはすべての露出モードで確認できます。
- ファインダーで確認したピント範囲と実際の写真でのピントの範囲は必ずしも一致しません。

オートフォーカスの苦手な物

オートフォーカス機構は、万能ではありません。写す物が下記のような場合には、ピント合わせができないことがあります。ファインダー内の合焦マーク[●]を利用した手動ピント合わせも同様です。
そんなときは、フォーカスモードレバーを[MF]にして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

a）測距点[::::]の内側が白い壁などの極端にコントラスト［明暗差］の低い物だけの場合。
b）測距点[::::]の内側に光を反射しにくい物がある場合。
c）非常に速い速度で移動している物。
d）反射の強い光、強い逆光［周辺が特に明るい物］。
e）測距点[::::]の内側に繰り返しの縦線や横線が存在する場合。
f）遠近のものが測距点[::::]の内側で同時に存在する場合。
f）については、合焦マーク[●]が出ていても、写したい物にピントが合わないことがありますのでご注意ください。

アクセサリーの注意

特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使った場合、オートフォーカスやファインダー内の合焦マーク[●]を利用した手動ピント合わせができません。94ページの手順に従って、ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをしてください。

偏光フィルターについて

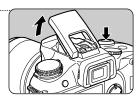
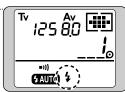
オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには円偏光フィルターをご利用ください。また、露出の精度も低下しますので、円偏光フィルターの使用をお勧めします。

内蔵ストロボについて

オートポップアップ

暗い場所での撮影や逆光など、ストロボの使用が必要な場合、内蔵ストロボが自動的に上がります。

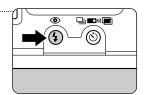
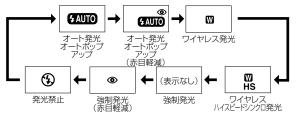
1 ストロボが必要なときはシャッターボタンを半押しすると自動的に上がります。

電源をオフにすると、自動的に収納されます。

2 充電が終わると、表示パネルとファインダー内に[ϟ]が表示されます。

メモ

- 電源をOFFにしたとき以外ストロボは自動的には下がりません。収納するときは、上部を指で押して収納してください。
- ストロボが必要な条件では、内蔵ストロボの撮影可能距離より写すものが遠い場合や近い場合も、ストロボが上がりますので十分ご注意ください。撮影可能距離については、106ページをご覧ください。
- ストロボが必要な条件では、ストロボ撮影に不適切なレンズ使用の場合も、ストロボが上がりますので十分ご注意ください。不適切レンズについては、111ページをご覧ください。
- レンズフードは、ストロボの光を遮りますので使わないでください。
- ストロボを連続して使うと、電池が多少温かくなることがありますが、異常ではありません。
- ストロボ充電中はシャッターはきれません。ただし、カスタムファンクションで、充電中でもシャッターがきれるように設定することができます。カスタムファンクションの設定については134、138ページをご覧ください。

発光方式を設定する

1 ストロボモードボタンを押すと下記の順番でストロボの発光方式を選ぶことができます。

メモ

- オートポップアップあり［AUTO］表示が選択できるのは、露出モードがオートピクチャー、またはピクチャーモードの場合だけです。[66ページ]
- ストロボが上がっている状態で、オートポップアップなし［AUTO 表示なし］が選択されると、強制発光になり、常にストロボが発光します。外付けストロボでも同様です。
- 表示パネルに AUTO が表示されているときだけストロボは自動的に上がります。また、ストロボが上がった後でも、必要なときだけストロボが発光します。（ストロボ自動発光）
- AEロック中はオートポップアップは働きません。
- 外付けストロボでも同様に、AUTO 表示中であれば、ストロボ自動発光になります。従って、写すものが明るいと発光しませんので、日中シンクロ撮影ではご注意ください。
- 外付けストロボを取り付けた状態では、表示パネルに AUTO が表示されていても内蔵ストロボは自動的に上がりません。
- 発光禁止［ 表示］では、内蔵ストロボは上がりません。また、上がっているときにでも発光しません。外付けストロボでも同様に発光はしません。

赤目軽減機能について

このカメラには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。表示パネルに[👁]が表示されている場合、シャッターがきれる直前に小光量のストロボ発光が行われ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので目が赤く写るのを目立たなくできます。

✍メモ

- 内蔵ストロボの赤目軽減機能とAF500FTZやAF360FGZのスレーブ機能やワイヤレス機能を組み合わせると、1度目の小発光で外付けストロボが発光してしまいますので、スレーブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。
- 外付けストロボのみを使用しているときも、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が働きます。詳しくは123ページをご覧ください。

赤目現象とは

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用すると軽減することができます。外付けのストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。

オートピクチャーとピクチャーモードのストロボ撮影可能距離

ストロボ撮影できる距離は、使用するレンズによっても異なりますが、被写体との距離約4メートル以内を目安としてご使用ください。(フィルム感度がISO400の場合)

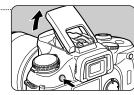
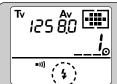
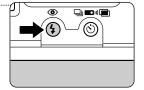
メモ

- ストロボで撮影できる最短距離は、開放絞り値の暗いレンズを使用しても、約0.7mより近距離にはなりません。0.7mより近距離で撮影すると露出が正しく制御されません。また、ケラレなどが発生しますのでご注意ください。
- 使用絞りからストロボ撮影の可能距離を計算する方法は、113ページをご覧ください。
- オートフォーカスをAF.S(シングル)に設定している場合、被写体が暗い状態ではピントの調整ができません。このときは内蔵ストロボを上げてください。シャッターボタンを半押しにしたり、 AFボタンを押すと、ピント調整のため内蔵ストロボが連続発光します。(AF補助光)。AF補助光の有効範囲は、1～5mを目安にしてください。

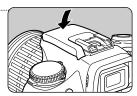
手動でストロボを上げます

1 **ストロボボタンを押して、ストロボを上げます。**

ストロボが跳ね上がり、ストロボの充電が開始します。

2 **充電が終わると、表示パネルとファインダー内に [⚡] が表示されます。**

3 **ストロボモードボタンを押して、ストロボの発光方式を選びます****[104ページ]。**

4 **シャッターボタンを押し込んでストロボ撮影をします。**

5 **収納するときは、図の部分を押し下げてください。**

電源をオフにすると、自動的に収納されます。

手動でストロボを上げます

メモ

- 表示パネルに [⚡禁止] が表示されているときには、ストロボボタンを押してもストロボは上がりません。
- 内蔵ストロボ充電中はシャッターはきれません。ただし、カスタムファンクションで充電中でもシャッターがきれるように設定できます。カスタムファンクションの設定については134、138ページをご覧ください。
- 内蔵ストロボを連続して使うと、電池が多少温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 外付ストロボを取り付けた状態で、ストロボボタンは押さないでください。外付けストロボに接触します。同時に使用する場合の接続方法については、124ページをご覧ください。
- レンズフードは、ストロボの光を遮りますので使わないでください。
- ストロボボタン [⚡UP] を押すと、常にストロボが光る強制発光になります。

日中シンクロについて

昼間の明るいときでも、帽子などで人物の顔が陰になってしまうような場合に、内蔵ストロボを利用すると陰の取れたきれいな写真が撮れます。日中シンクロのやり方は、一般のストロボ撮影と同じですから、そのままシャッターボタンを押すだけで簡単にできます。

撮影の方法

1．ストロボボタンを押します。
2．ストロボモードが強制発光になっていることを確認します。
3．ストロボの充電完了を確認します。
4．撮影します。

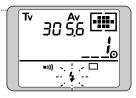
メモ

- 背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。
- 日中シンクロを行なう場合、ストロボモードボタン［⚡］を押して、表示パネルの⚡AUTO表示を消してから撮影してください。⚡AUTO表示が出たままで撮影するとストロボが発光しないことがあります。

ストロボなし

ストロボ使用 日中シンクロ

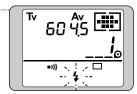
ストロボお勧めマークについて

1 暗い場合や逆光のときは、表示パネルとファインダー内の[⚡]が点滅し、ストロボの使用をお勧めします。

✍メモ

- 露出モードがシャッター優先自動露出・マニュアル露出では逆光の場合にのみ、[⚡]が点滅します。
- 充電完了と同時に[⚡]は点灯になります。
- バルブ撮影では、[⚡]は表示されません。

不適切レンズの警告表示

1 ストロボ撮影に不適切なレンズを使用すると、充電完了時に表示パネルとファインダー内の[ϟ]が早く点滅します。

メモ

- 内蔵ストロボの適・不適レンズについては、114ページをご覧ください。
- 警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出ますのでご注意ください。
- FA J・FA・Fレンズ以外では、警告表示は出ません。
- 警告が出る条件でも、オートポップアップ機能は働きますのでご注意ください。

内蔵ストロボについて、もっと知りたい方へ

オートピクチャーとピクチャーモードを使う

・周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが自動的に変化します。
・シャッター速度は、1／125秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。夜景モード では低速限界は1秒になります。FA J・FA・Fレンズ以外のレンズを使用したとき、あるいは動体モード では1/125秒固定になります。

シャッター優先自動露出を使う

・動きのある物を写すときに、ぶれの効果を変えてストロボ撮影ができます。
・1／125秒以下のシャッター速度を自由に選んでストロボ撮影ができます。
・周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化します。

絞り優先自動露出を使う

・ピントの合う範囲［被写界深度］を変えて撮影したいときや、より遠くの物を写したいときなどに、絞りを自由に変えてストロボ撮影ができます。
・周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化します。
・シャッター速度は1／125秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。
・FA J・FA・Fレンズ以外のレンズを使用した場合は、1/125秒固定になります。

マニュアル露出を使う

・1／125秒以下のシャッター速度と絞りを自由に組み合わせて、ストロボ撮影ができますので、背景の明るさを自由に変えてのストロボ撮影などができます。

使用絞りから撮影距離を計算する

遠距離側の目安　ガイドナンバー÷使用絞り
近距離側の目安　遠距離側目安÷5［注］

ただし、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出オーバーの原因となります。
注：割り算で使用した数値の「5」は、このカメラの内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用される数値です。
なお、ガイドナンバーは使用するフィルム感度［ISO］により下の表のようになります。

ISO25→5.5	ISO200→15.6
ISO50→7.8	ISO400→22
ISO100→11	

ここでISO100のフィルムを絞りF2.8で使うときの例をあげます。
　ガイドナンバー（11）÷F2.8＝3.9m
　3.9÷5≒0.8m
従って、約0.8mから3.9mの範囲でストロボが使えます。

撮影距離から使用絞りを計算する

ガイドナンバー÷撮影距離＝使用絞り

計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方［2.8］にします。

FA J・FA・Fレンズの内蔵ストロボ適合表

[○は使用可、×のレンズではケラレが発生します]
いずれもフードなしでの評価です。

レンズ名	適　合
Fズーム17～28mmF3.5～4.5	×
FAズーム20～35mmF4AL	△ 焦点距離28mm未満ではケラレが発生することがあります。
FAズーム24～90mmF3.5～4.5AL（IF）	△ 焦点距離35mm未満と、35mmで撮影距離が1m以下ではケラレが発生することがあります。
FAズーム28～70mmF4AL	○
FA★ズーム28～70mmF2.8AL	×
FA Jズーム28～80mmF3.5～5.6	○ 焦点距離が28mm側で、表示パネルとファインダー内に ϟ 点滅による警告表示が出ますが、ケラレは発生しません。
FAズーム28～80mmF3.5～5.6	△ 焦点距離が28～35mmで撮影距離が3m以下と、35mmで撮影距離が1m以下ではケラレが発生することがあります。
FAズーム28～90mmF3.5～5.6	○ 焦点距離が28mm側で、表示パネルとファインダー内に ϟ 点滅による警告表示が出ますが、ケラレは発生しません。
FAズーム28～105mmF4～5.6	△ 焦点距離が28～35mmと、35mmで撮影距離が1.5m以下では、ケラレが発生することがあります。
FAズーム28～105mmF4～5.6（IF）	△ 焦点距離が40mm以下ではケラレが発生することがあります。
FAズーム28～105mmF3.2～4.5AL（IF）	○
FAズーム28～200mmF3.8～5.6AL(IF)	△ 焦点距離が70mm以下ではケラレが発生することがあります。
FAズーム35～80mmF4～5.6	○
FAズーム70～200mmF4～5.6	○

レンズ名	適　合
ＦＡ Ｊズーム75～300mmＦ4.5～5.8	○
ＦＡ★ズーム80～200mmＦ2.8ED(IF)	△ 焦点距離が80～90mmではケラレが発生することがあります。
ＦＡズーム80～320mmＦ4.5～5.6	○
ＦＡズーム80～200mmＦ4.7～5.6	○
Ｆ・FAズーム100～300mmＦ4.5～5.6	○
ＦＡ★ズーム250～600mmＦ5.6ED(IF)	×
ＦＡ20mmＦ2.8	×
ＦＡ★24mmＦ2AL(IF)	×
ＦＡ28mmＦ2.8AL	○
ＦＡ31mmＦ1.8AL Limited	○
ＦＡ35mmＦ2AL	○
ＦＡ43mmＦ1.9 Limited	○
ＦＡ50mmＦ1.4	○
ＦＡ50mmＦ1.7	○
ＦＡ77mmＦ1.8 Limited	○
ＦＡ★85mmＦ1.4ED(IF)	○
ＦＡ135mmＦ2.8(IF)	○
ＦＡ★200mmＦ2.8ED(IF)	○
ＦＡ★300mmＦ2.8ED(IF)	×
ＦＡ★300mmＦ4.5ED(IF)	×
ＦＡ★400mmＦ5.6ED(IF)	○
ＦＡ★600mm4ED(IF)	×
ＦＡマクロ50mmＦ2.8	○
ＦＡマクロ100ミリＦ2.8	○
ＦＡマクロ100ミリＦ3.5	○
ＦＡ★マクロ200mmＦ4ED（ＩＦ）	○
ＦＡソフト28mmＦ2.8	○
ＦＡソフト85mmＦ2.8	○

外付けストロボの使用について

カメラの内蔵ストロボで光量が不足するときは、別売りの外付けストロボを利用してください。
ただし、ご使用の外付けストロボにより使用できる機能が異なりますので、以下の説明を参照の上ご使用ください。

ストロボの機能一覧

内蔵ストロボと別売りの外付けストロボで使用可能な機能について説明します。ご使用のストロボの機種を確認の上ご使用ください。

カメラの機能	A	B	C	D	E
赤目軽減機能が使用できる	○	○	×	○*1	×
ストロボ自動発光ができる	○	○	○	○	○
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる	○	○	○	○	○
オートピクチャー、ピクチャー、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる	○	○	○	○*2	○*2
ファインダー内でオートチェックできる	×	○	○	×	×
P-TTLオートストロボ撮影ができる☞p.118	×	○*3	×	×	×
TTLオートストロボ撮影ができる	○	○	○	○*4	×
低速シンクロ撮影ができる☞p.83	○	○	○	○	○
AF補助光が使用できる	○	○	○	×	×
後幕シンクロ撮影ができる*5	○*6	○	○	×	×
光量比制御モードで撮影ができる*5	×	○	×	×	×
スレーブ機能が働く	×	○	×	×	×
マルチストロボが働く	×	○*7	×	×	×
ハイスピードシンクロで撮影ができる	×	○*8	×	×	×
ワイヤレスで撮影ができる	×	○	×	×	×

A： 内蔵ストロボ
B： AF360FGZ、AF500FTZ、AF330FTZ
C： AF400FTZ、AF240FT
D： AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C、AF200SA
E： AF200S、AF160、AF140

＊1：AF280T、AF400Tで、ファインダーオートチェックをOFFにし、TTLオートに設定した場合のみ使用できます。
＊2：D（AF200SAを除く）のストロボで、MS（マニュアルシンクロ）、M（マニュアル）で使用するときやEのストロボを使用するときは、絞り優先自動露出またはマニュアル露出、バルブで撮影してください。ピクチャーモードやシャッター優先自動露出では、絞り値が変化しますので使用できません。
＊3：AF360FGZで、FA J・FA・F・Aレンズを使用した場合のみ。
＊4：AF200SAでは、TTLオートストロボ撮影できません。
＊5：シャッター速度は、1／60秒以下になります。
＊6：BまたはCのストロボと組み合わせて後幕シンクロが可能です。
＊7：AF330FTZ、AF360FGZは不可。
＊8：AF330FTZ、AF500FTZは不可。

P-TTLオートで使う

AF360FGZと組み合わせた場合、P-TTLオートにすると、撮影直前にストロボをプリ発光させ、16分割で測光するため、より正確な制御が可能です。ワイヤレスでもP-TTLオートが可能です。

1. カメラのホットシューに付いているカバーを外し、ストロボを取り付けます。
2. ストロボの電源を入れます。
3. 発光モードをP-TTLオートにします。
4. ストロボの充電完了を確認し、撮影します。

メモ

- P-TTLオートはAF360FGZとの組み合わせでのみ有効です。AF360FGZ以外のストロボでは、TTLオートになります。
- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の⚡も点灯します。
- 操作のしかたや撮影できる距離など詳しい内容については、外付けストロボの説明書をご覧ください。
- 表示パネルに⚡AUTOが表示中であれば、ストロボ自動発光になります。従って、写すものが明るいと発光しませんので、日中シンクロ撮影ではご注意ください。
- 外付ストロボを取り付けた状態で、ストロボボタンは押さないでください。外付けストロボに接触します。同時に使用する場合は、124ページの方法で接続してください。

ハイスピードシンクロモードで使う

AF360FGZを使用することで、1/125秒より速いシャッター速度でも、ストロボを発光して撮影することができます。ハイスピードシンクロは、ストロボをカメラに取り付けても、ワイヤレスでも使用できます。

●ストロボをカメラに取り付けて撮影する場合

1. カメラのホットシューに付いているカバーを外し、ストロボを取り付けます。
2. モードダイヤルを回して、露出モードをオートピクチャー、ピクチャーモード以外にします。
3. ストロボの電源を入れます。
4. ストロボのシンクロモードをHS（ハイスピードシンクロ）にします。
5. ストロボの充電完了を確認し、撮影します。

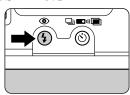
✍メモ

- ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の[⚡]も点灯します。
- シャッター速度が1/125秒を超えた場合のみハイスピードシンクロモードになります。
- 露出モードがオートピクチャー、ピクチャーモードではハイスピードシンクロはできません。

外付けストロボの使用について

●ストロボをワイヤレスで撮影する場合

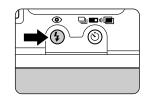
1．ストロボを発光させたい位置に固定します。
2．ストロボの電源スイッチを「WIRELESS」にします。
3．ストロボのワイヤレスモードをS（スレーブ）にします。
4．ストロボボタンを押して内蔵ストロボが使用できる状態にします。
5．ストロボモードボタンを押して WHS を表示させます。

メモ

- 内蔵ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の も点灯します。
- シャッター速度が1/125秒を超えた場合のみハイスピードシンクロモードになります。

ワイヤレスモードで使う

AF360FGZを使用することで、カメラとストロボをコードで接続しないでストロボ撮影することができます。ハイスピードシンクロの機能は、ワイヤレスでも使用できます。

1. ストロボを発光させたい位置に固定します。
2. ストロボの電源スイッチを「WIRELESS」にします。
3. ストロボのワイヤレスモードをS（スレーブ）にします。
4. ストロボボタンを押して内蔵ストロボが使用できる状態にします。
5. ストロボモードボタンを押して W を表示させます。

メモ

- 内蔵ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の ⚡ も点灯します。
- 内蔵ストロボの変わりに、AF360FGZをカメラに直接取り付けてもワイヤレスモードが有効になります。

外付けストロボの使用について

ワイヤレスストロボ制御について（P-TTL撮影）

AF360FGZをワイヤレスで使用するときには、ストロボが発光されるまでに内蔵ストロボとAF360FGZ間で以下のような情報伝達が行なわれています。

1．シャッターボタンを押しきる
2．内蔵ストロボが小光量発光（カメラ側の発光モードを伝達）
3．外付けストロボが小光量発光（被写体の状態を確認）
4．内蔵ストロボが小光量発光（発光量を外付けストロボに伝達）
※HS（ハイスピードシンクロ）が設定されている場合は、発光時間を伝達するためにこの後内蔵ストロボがもう一度小発光します。
5．外付けストロボが本発光

メモ

- カスタムファンクションで内蔵ストロボを外付けストロボへの情報伝達用としてだけ使うか、露出に影響を与える発光もするかを設定できます。カスタムファンクションの設定については、134、139ページをご覧ください。

ワイヤレスストロボ制御のチャンネル設定について

ワイヤレス制御を行う場合、以下の方法でAF360FGZのチャンネル（例：CH1）を合わせる必要があります。

AF360FGZをカメラに取り付け、カメラの電源を入れた後にシャッターボタンを半押しにすると、AF360FGZのチャンネルがカメラ側に設定されます。

メモ

- ストロボモードで W または WHS を設定したときに、現在のチャンネルが約10秒間表示されます。

赤目軽減機能について

内蔵ストロボ同様、外付けストロボでも赤目軽減機能がお使いいただけます。ストロボの種類によってご使用いただけない場合や使用条件がありますので、116、117ページの一覧表をご覧ください。

後幕シンクロについて

内蔵ストロボと後幕シンクロ機能を備えた外付けストロボを組み合わせて同時に使用した場合、外付けストロボが後幕シンクロに設定されていれば、内蔵ストロボも後幕シンクロになります。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターをきってください。

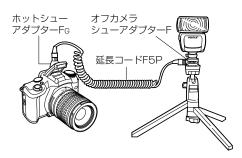
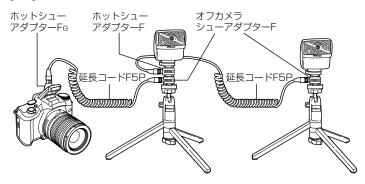
内蔵ストロボと外付けストロボの同時使用方法

次ページの[図1]のようにカメラのホットシュー部分に別売りのホットシューアダプターFGを、外付けストロボの下に別売りのオフカメラシューアダプターFを付け、延長コードF5Pで接続します。オフカメラシューアダプターFの下には三脚取り付け用のねじがありますので、三脚に固定することができます。ただし、AF400Tは4PシンクロコードBが内蔵ストロボに当たってしまいますので、同時に使用することはできません。

ストロボの多灯撮影

2個以上の外付けストロボを同時に使用する場合は、116ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうしを組み合わせるか、BとCあるいはDとEの組み合わせでお使いください。内蔵ストロボは、どのタイプとでも組み合わせ可能です。つなぎ方は次ページの[図2]のように、外付けストロボとホットシューアダプターFにオフカメラシューアダプターFを付け、もう一方の外付けストロボに付けたオフカメラシューアダプターFと、延長コードF5Pで接続します。

外付けストロボの使用について

[図1]内蔵ストロボと組み合わせて使用する場合

[図2]2個以上の外付けストロボを組み合わせて使用する場合

メモ

- AF500FTZでは、オフカメラシューアダプターFを使用しなくても、直接延長コードF5Pをつなぐことができます。

光量比制御シンクロ撮影

外付けストロボ［AF330FTZまたはAF500FTZ、AF360FGZ］どうしを組み合わせるか、外付けストロボと内蔵ストロボと組み合わせることで、2つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影［光量比制御シンクロ撮影］ができます。

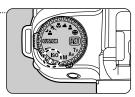
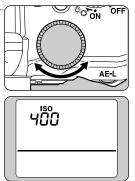
1．124ページの方法で、外付けストロボをカメラから離して接続します。
2．AF360FGZ、AF330FTZまたはAF500FTZのシンクロモードを光量比制御モードにします。
3．外付けストロボと内蔵ストロボのストロボの充電完了を確認してから撮影してください。

✍メモ

- 光量の比率は、外付けストロボどうしの場合、光量比制御に設定しているストロボ2に対して、それ以外のストロボ1、外付けストロボと内蔵ストロボの場合は、内蔵ストロボが1に対して外付けストロボは2になります。
- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となりますので、使用しないでください。
- 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限は1／60秒になります。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

DXでないフィルム使用時の感度設定方法

このカメラでは、フィルムをカメラに入れたときに、自動的にフィルム感度が設定されますが、一部のDXでないフィルムを使う場合は、下記の方法でフィルム感度を設定してください。

1 モードダイヤルを回して ISO の位置に合わせます。

2 セレクトダイヤルを回してフィルム感度を変えます。

3 モードダイヤルを動かして ISO CUSTOM ■))) 以外の位置に戻します。

✍メモ

- 数字を小さい方へ変化させたいときは、セレクトダイヤルを左に、大きい方へ変化させたいときは、右に回してください。
- モードダイヤルを ISO ■))) CUSTOM に合わせたままでは、シャッターがきれません。
- DXの感度と違うフィルム感度を設定したときには、撮影モードに切り替えても、表示パネルに ISO 表示が出ます。

専用アクセサリーについて

本機には、次のような各種専用アクセサリーが用意されています。アクセサリーの詳細については、当社お客様窓口にお問い合わせください。

単3バッテリーグリップBG-20

単3形アルカリ電池を使用するためのバッテリーグリップ。操作性を重視し、縦位置撮影のためのシャッターボタンやAEロックボタンを配備。

撮影可能フィルム本数

	フィルム本数(使用温度20℃)
一般撮影	約75本
ストロボ撮影(使用率50%)	約30本
ストロボ撮影(使用率100%)	約20本
バルブ露出時間	約12時間

※バッテリーグリップに使用するアルカリ電池は、寒冷地などの低温下では性能が低下します。
低温下では、できるだけバッテリーグリップを外してのご使用をお勧めします。

ケーブルスイッチ

ケーブルスイッチCS-205
レリーズコードです。コードの長さは0.5mです。

ストロボ関連

オートストロボAF360FGZ
ガイドナンバーが最大36（ISO100・m）のオートストロボ。スレーブ機能や光量比制御モード、外光オート、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影、先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

オートストロボAF500FTZ
ガイドナンバーが最大50（ISO100・m）のAFスポットビーム内蔵オートストロボ。スレーブ機能、マルチ発光、光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

マクロストロボAF140C
ガイドナンバー14の接写用ストロボ。

オフカメラシュークリップCL－10
AF360FGZなどをカメラから離して使用するときのセッティング用クリップ。

ホットシューアダプターFG、延長コードF5P、オフカメラシューアダプターF
外付けストロボをカメラから離して使用するときのアダプターと接続コード。

視度調整レンズアダプターM

視度を調整するためのアクセサリーです。ファインダーの接眼部に取り付けて使用します。
視度調節レンズアダプターMは、−5～＋3m⁻¹（毎メートル）までの8種類ございますので、ご自分の視力に合った視度調整レンズアダプターをお使いください。

ファインダー／レンズ関連

マグニファイヤーFB

ファインダー中央部を拡大してみるアクセサリー。

レフコンバーターA

ファインダーを見る角度を90度間隔に変えることができるアクセサリー。倍率は1倍と2倍に切り替えることができます。

メモ

取り付け時、カメラの裏ぶたの開閉を行なうと、レフコンバーターAと接触することがあります。裏ぶた開閉時は、レフコンバーターAを外してください。

フィルター

スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。フィルター径は、49mm、52mm、58mm、67mm、77mmの5種類です。

メモ

- ホットシュー部分に付いているホットシューカバーは、*istとMZ−L、MZ−30およびMZ−7専用品です。他の機種のものを使用すると、ストロボのオートポップアップが働かなくなります。

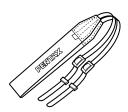
カメラケース

ソフトケースCF-12

- 以下のアクセサリーは、カメラの同梱品と同じものです。

アイカップFM

カメラストラップFM

4 その他について

ファンクションキーの操作［カスタムファンクション］

このカメラには、使用目的に合わせてカメラの各機能を設定できる17種類のカスタムファンクション機能があります。

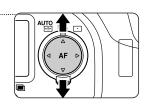
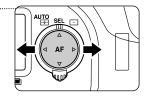
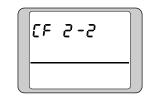
No.	設定内容	参照ページ
露出に関する設定		
[CF1]	オートブラケット撮影の順序を設定する	[136ページ]
[CF2]	オートブラケット撮影後の状態を設定する	[137ページ]
[CF3]	測距点と露出合わせの関連付けを設定する	[137ページ]
[CF4]	AEロックボタンを押したときの機能を設定する	[137ページ]
[CF5]	フィルム感度の設定方法を設定する	[138ページ]
オートフォーカスに関する設定		
[CF6]	測距点のスーパーインポーズ表示の有無を設定する	[138ページ]
ストロボに関する設定		
[CF7]	内蔵ストロボ充電中のレリーズ状態を設定する	[138ページ]
[CF8]	ワイヤレス設定時の内蔵ストロボの発光状態を設定する	[139ページ]
[CF9]	ワイヤレス設定時のストロボボタンの機能を設定する	[139ページ]
フィルム巻き戻しに関する設定		
[CF10]	フィルムの巻き戻し方法を設定する	[139ページ]
[CF11]	フィルムの巻き戻し状態を設定する	[140ページ]
セルフタイマーに関する設定		
[CF12]	セルフタイマーの作動時間を設定する	[140ページ]
リモコンに関する設定		
[CF13]	リモコン操作でシャッターがきれるまでの時間を設定する	[140ページ]
[CF14]	リモコン操作でのピント合わせの有無を設定する	[141ページ]

No.	設定内容	参照ページ
その他の設定		
[CF15]	表示パネルの照明の点灯方法を設定する	[141ページ]
[CF16]	モードダイヤルのイルミネーションの点灯方法を設定する	[141ページ]
[CF17]	レンズ絞り A 位置以外でのレリーズ許可を設定する	[142ページ]

基本操作について

カスタムファンクション機能を設定するときの基本操作について説明します。

1 モードダイヤルを回して CUSTOM の位置に合わせます。

2 十字キー ▲ ▼ を押して設定するファンクションNo.（機能項目）を選びます。

3 十字キー ◀ ▶ を押して設定番号（設定内容）を選びます。

メモ

- 画面の設定内容は、ファンクションNo.［CF2］（オートブラケット撮影の状態を設定する項目）を選択し、「2」（オートブラケット撮影を続行）を選択しています。

4 モードダイヤルを回して CUSTOM ▪))) ISO 以外の位置に合わせます。

設定をすべて初期状態に戻すには

設定したカスタムファンクション機能をすべて初期状態（設定番号1）に戻すには、以下の操作にしたがってください。

1. モードダイヤルを回して CUSTOM に合わせます。
2. AEロックボタンを2秒以上押し続けると、表示パネルに［CF］と［CL］が表示され、設定したカスタムファンクション機能がすべて初期状態に戻ります。

3. モードダイヤルを回して CUSTOM ■))) ISO 以外の位置に合わせます。

カスタムファンクション機能を設定する

カスタムファンクションNo.順に、各機能項目と設定内容について説明します。

カスタムファンクションNo.の表示方法や設定番号の表示番号については、134ページをご覧ください。

［CF1］オートブラケット撮影時の撮影順序を設定します

◎ファンクションNo.：［CF1］

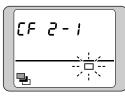
◎設定番号

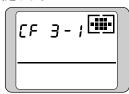
［1］　：適正 → アンダー → オーバー

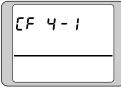
［2］　：アンダー → 適正 → オーバー

［3］　：オーバー → 適正 → アンダー

[CF2] オートブラケット撮影後の状態を設定します

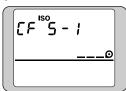
◎ファンクションNo.：［CF2］
◎設定番号
［1］　：オートブラケット撮影の解除
［2］　：オートブラケット撮影を続行

[CF3] 測距点と露出合わせの関連付けを設定します

分割測光を設定しているときに、ピント調整した測距点に応じて露出を自動調整するかどうかを設定します。
◎ファンクションNo.：［CF3］
◎設定番号
［1］　：しない
［2］　：する

[CF4] AEロックボタンを押したときの機能を設定します

◎ファンクションNo.：［CF4］
◎設定番号
［1］　：AEロックのみを行なう
［2］　：オートフォーカスを行ない、
　　　　AEロックは行なわない

メモ

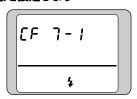
- 「2」を設定するとシャッターボタンを押してもAFは作動しません。

［CF5］フィルム感度の設定方法を設定します

◎ファンクションNo.：［CF5］
◎設定番号
［1］　：DX自動選択
［2］　：DXを自動選択しない
※任意にフィルム感度を設定してください。［126ページ］

［CF6］測距点のスーパーインポーズ表示の有無を設定します

◎ファンクションNo.：［CF6］
◎設定番号
［1］　：表示する
［2］　：表示しない

［CF7］内蔵ストロボ充電中のレリーズ状態を設定します

◎ファンクションNo.：［CF7］
◎設定番号
［1］　：充電中はシャッターがきれない
［2］　：充電中でもシャッターがきれる

[CF8] ワイヤレス設定時の内蔵ストロボの発光状態を設定します

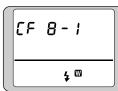
AF360FGZでワイヤレスモード設定時、内蔵ストロボをストロボとして発光させるか、ワイヤレス用のコントローラーとして発光させるかどうかを設定します。

◎ファンクションNo.：［CF8］

◎設定番号

［1］　：内蔵ストロボをストロボとして発光する

［2］　：内蔵ストロボをコントローラーとして発光する

メモ

- 内蔵ストロボをコントローラーとして使用すると、内蔵ストロボは露出情報をワイヤレス専用ストロボに伝達するだけで、実際に露出に影響を与える発光はしません。

[CF9] ワイヤレス設定時のストロボボタンの機能を設定します

AF360FGZでワイヤレスモード設定時、ストロボボタンを押したときの内蔵ストロボの機能を設定します。

◎ファンクションNo.：［CF9］

◎設定番号

［1］　：内蔵ストロボの発光なし

［2］　：テスト発光を行なう（1回発光）

［3］　：モデリング発光を行なう（連続発光）

[CF10] フィルムの巻き戻し方法を設定します

◎ファンクションNo.：［CF10］

◎設定番号

［1］　：自動巻き戻し

［2］　：自動では巻き戻さない

※巻き戻しボタンを押して巻き戻してください。［51ページ］

［CF11］フィルムの巻き戻し状態を設定します

◎ファンクションNo.：［CF11］

◎設定番号

［1］　：完全に巻き込む

［2］　：先端を残す

［CF12］セルフタイマーの作動時間を設定します

◎ファンクションNo.：［CF12］

◎設定番号

［1］　：12秒後にシャッターがきれる

［2］　：ミラーアップの状態で2秒後にシャッターがきれる

✍メモ

- 通常の撮影では、シャッターがきれる直前にミラーアップします。設定番号［2］に設定すると、ミラーアップによるぶれを軽減するために、あらかじめミラーをアップした状態でシャッターがきれます。ミラーアップで撮影するときは58ページの手順に従って操作してください。

［CF13］リモコン操作でシャッターがきれるまでの時間を設定します

◎ファンクションNo.：［CF13］

◎設定番号

［1］　：3秒後にきれる

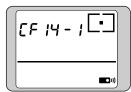
［2］　：押した直後にきれる

[CF14] リモコン操作でのピント合わせの有無を設定します

◎ファンクションNo.：［CF14］

◎設定番号

［1］　：ピント合わせをしない

［2］　：ピント合わせをする

✍メモ

- 設定番号［2］に設定すると、ピントが合わないとシャッターがきれません。

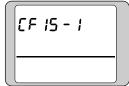
[CF15] 表示パネルの照明の点灯方法を設定します

◎ファンクションNo.：［CF15］

◎設定番号

［1］　：電源レバーを にしたときに点灯

［2］　：被写体が暗いときに自動点灯

［3］　：点灯しない

[CF16] モードダイヤルのイルミネーションの点灯方法を設定します

◎ファンクションNo.：［CF16］

◎設定番号

［1］　：流れ点灯

［2］　：点灯しない

CF 16 - 1

［CF17］レンズ絞り A 位置以外でのレリーズ許可を設定します

◎ファンクションNo.：［CF17］
◎設定番号
［1］：絞り A 位置以外ではシャッターがきれない
［2］：絞り A 位置以外でもシャッターがきれる

メモ

- 設定番号［2］に設定すると、FA・F・Aレンズの絞りを A 位置以外にしたり、A 位置のないレンズを取り付けても、シャッターがきれるようになります。ただし、右表のような制約を受けますので、ご使用の際はご注意ください。

使用レンズ	露出モード	制約内容
FA･F･A･M（レンズ単体、オート接写リングKなどの自動絞り機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	絞り優先自動露出	絞りリングを操作しても、絞りは開放のままで絞られません。レンズの開放絞りに連動してシャッター速度は変化しますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内および表示パネルには、絞り表示が[F--]と表示されます。
FA･F･A･M･S（接写リングKなどの絞り込み機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	絞り優先自動露出	設定した絞り値で撮影されますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内および表示パネルには、絞り表示が[F--]と表示されます。
レフレックスレンズなどの手動絞りのレンズ（レンズ単体）	絞り優先自動露出	
FA･Fソフト85mm FAソフト28mm（レンズ単体）	絞り優先自動露出	手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されますが、露出の誤差が生じることがあります。また、ファインダー内および表示パネルには、絞り表示が[F--]と表示されます。
すべてのレンズ	マニュアル露出	設定した絞り値とシャッター速度で撮影されますが、露出計が働きませんので、露出の正誤は確認できません。また、ファインダー内および表示パネルには、絞り表示が[F--]と表示されます。

こんなときは？

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症　状	原　因	処　置
シャッターが切れない。 表示パネルに表示がでない。	レンズの絞りが A 位置以外になっている。	絞りを A 位置にしてください。[15ページ]
	電源がOFFになっている。	電源をONにしてください。[27ページ]
	バッテリー警告 [電池マーク] が点滅している。	電池を交換してください。[23ページ]
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。[23ページ]
	表示パネルがフィルム感度設定の表示になっている。	表示を撮影モードに切り替えてください。[66ページ]
	内蔵ストロボが充電中である。	充電されるまで待ってください。[103ページ]
ピントが合わない。	ピントを合わせたい物［被写体］が測距点 [測距点マーク] の範囲内に入っていない。	写したい物を測距点 [測距点マーク] の内側に入れて撮影してください。[48ページ]
	写したい物に近づきすぎている。	写したい物から離れてください。[48ページ]
	フォーカスモードレバーが MF または AF.C になっている。	フォーカスモードレバーを AF.S にしてください。[43ページ]
	オートフォーカスの苦手な物	マット部分を利用して手動でのピント合わせをしてください。[95ページ]
AEロックが働かない。	マニュアル露出やバルブ撮影では、AEロックができない。	マニュアル露出以外のモードにしてください。[86ページ]
ファインダー内の [●] が点滅する。	撮影する距離が近すぎたり、オートフォーカスの苦手な物などのためピント合わせができない。	マット部分でのピント合わせをご利用ください。[95ページ]
内蔵ストロボが充電しない。	バッテリー警告 [電池マーク] が点滅している。	電池を交換してください。[23ページ]
ストロボボタンを押しても内蔵ストロボが上がらない。	表示パネルに [発光禁止マーク] が表示されている。	表示を [発光禁止マーク] 位置以外にしてください。[104ページ]

症　状	原　因	処　置
内蔵ストロボが自動で上がらない。	露出モードがオートピクチャーまたはピクチャーモード以外になっている。	露出モードをオートピクチャーまたはピクチャーモードにしてください。[66ページ]
	専用品以外のホットシューカバーを付けている。	専用のホットシューカバーを付けてください。[129ページ]
内蔵ストロボが上がっているのにストロボが光らない。	⚡AUTO が表示されているときは、写すものが明るいとストロボは発光しません。	[45ページ]
パワーズームが動かない。	このカメラはパワーズームに対応しておりません。	[18ページ]
フィルムが終わっても自動で巻き戻らない	カスタムファンクション[CF10]で設定番号「2」(自動巻き戻しをしない)が設定されている。	カスタムファンクション[CF10]の設定を変えてください。[139ページ]

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい作動をしなくなることがあります。このような場合には、一旦電池を入れ直してみてください。また、ミラーが上がったままになった場合には、電池を入れ直してから電源をONにし、シャッターボタンを押し込んだまま電源をOFFにすると、ミラーが下がります。これらを行ないカメラが正常に作動すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

主な仕様

型　式―――――― TTLフラッシュ内蔵　マルチモードTTL自動露出・AF35㎜一眼レフカメラ

画面サイズ―――― 24×36mm

使用フィルム――― 35mmフィルム[J135パトローネ入り]35mmDXフィルム=ISO25～5000、手動セットはISO6～6400

露出モード ―――― オートピクチャーモード、ピクチャーモード[標準モード、人物モード、風景モード、近接モード、動体モード、夜景モード]、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出、マニュアル露出、バルブ

シャッター ―――― 電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター、オートシャッター=1／4000秒～30秒[無段階]、マニュアルシャッター=1／4000秒～30秒[セレクトダイヤルで1/2 EVステップの設定可]、バルブ、電磁レリーズ、電源OFFでシャッターロック

マウント ――――― ペンタックスバヨネットKAFマウント[AFカプラー、レンズ情報接点付Kマウント]

使用レンズ―――― KAF2[パワーズーム不可]、KAFマウントレンズ、KAマウントレンズ

オートフォーカス機構 - TTL位相差検出式(SAFOXⅧ)、オートフォーカス作動輝度範囲Ev−1～18[ISO100][F1.4レンズ付き]、フォーカスロック可能、フォーカスモード=AF.S(シングル)/AF.C(コンティニュアス)[動体予測可]／MF、測距点切り替え可能

ファインダー――― ペンタミラーファインダー、ナチュラルブライトマットフォーカシングスクリーン、視野率90%、倍率0.72倍[1.4/50mm・∞]、視度=−2.5～+1.5m^{-1}[毎メートル]

ファインダー内表示 - フォーカス表示 [●] 合焦=点灯／非合焦=点滅、ストロボ情報 [ϟ] 充電完了=点灯／ストロボお勧めまたは不適合レンズ警告=点滅、シャッター速度表示、絞り値表示、バーグラフ=露出補正値／マニュアル露出時のオーバー・アンダー表示、ピクチャーモードの切り替え([☺] 標準モード、[人物] 人物モード、[▲] 風景モード、[花] 近接モード、[動体] 動体モード、[夜景] 夜景モード)
[✱] =AEロック

LCDパネル表示 ―― [ϟ] 点灯=内蔵ストロボ充電完了、点滅=ストロボおすすめまたは不適合レンズ警告、[ストロボ発光禁止] =ストロボ発光禁止
[◉] =赤目軽減機能、[ϟAUTO] =オートポップアップ、ストロボ自動発光,
[W] =ワイヤレス発光、[HS] =ハイスピードシンクロ、[□] =1コマ撮影
[連続] =連続撮影、[セルフタイマー] =セルフタイマー、[ブラケット] =オートブラケット(±0.3EV、±0.5EV、±1EV)、[リモコン] =リモコン撮影、[多重] =多重撮影、[•))] =電子音
シャッター速度、絞り値、測距点、フィルムISO感度、日付・時刻、バーグラフ=露出補正値／マニュアル露出時のオーバー・アンダー表示、[電池] =電池消耗警告
[パトローネ] =パトローネ、フィルム送行、巻き取り、フィルム枚数

プレビュー ――――― 電子式[全露出モードで使用可能]

セルフタイマー —— 電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間12秒［ミラーアップ機能あり］、電子音の有無設定可能、作動後解除可能

ミラー —————— クイックリターンミラー、ミラーアップ機能（2秒セルフ時可能）

フィルム入れ———— オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ、裏ぶたにフィルム情報窓付

巻き上げ・巻き戻し— 内蔵モーターによる自動巻き上げ・巻き戻し式、1コマ撮影・連続撮影［約2.5コマ／秒］、フィルム終了時自動巻き戻し、フィルム走行・巻き戻し完了をLCD表示、多重露出可能、途中巻き戻し可能

オートブラケット—— 適正・アンダー・オーバーの3コマ連続段階露出が可能［±0.3、±0.5、±1EV］

露出計・測光範囲 —— TTL開放分割測光（16分割）、測光範囲 50mm F1.4 ISO100 EV0～20.5、中央重点・スポット測光可能

露出補正 ———— ±3段階［EV］（0.5段階［EV］ごと設定可能）
AEロック ———— ボタン式（タイマー式20秒間）シャッターボタン半押しで継続

内蔵ストロボ———— 直列制御TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー11［ISO100／m］、28mmレンズの画角をカバー、同調速度1／125秒以下、日中シンクロ 低速シンクロ 光量比制御可能、ISO連動範囲=25～800、オートポップアップ［電源オフで自動収納］・自動発光可能、赤目軽減機能

外付けストロボ同調— ホットシュー［X接点専用ストロボ接点付き］専用ストロボ連動 ISO連動範囲=25～800、自動発光可能、赤目軽減機能可能、専用ストロボ使用でハイスピードシンクロ、ワイヤレスシンクロ、P-TTLオート可能

カスタムファンクション — 17項目設定可能
電源 ———————— 3Vリチウム電池「CR2」2個

電池消耗警告 ——— バッテリーマーク ▭ 点灯［点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯］

裏ぶた —————— 交換不可

大きさ・質量［重さ］— ［ボディーのみ電池別］122mm［幅］×84mm［高］×63.5mm［厚］335g

付属品 —————— ホットシューカバーFK、カメラストラップFM、アイカップFM、MEファインダーキャップ、リモートコントロールF、三脚用補助板

デート機構 ———— クォーツ制御・液晶表示式デジタル時計、オートカレンダー［閏年は自動修正］

デート写し込み方法 - フィルム前面からの写し込み

デートの種類 ——— ①年・月・日②日・時・分③【------】（写し込み無し）④月・日・年⑤日・月・年

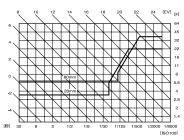
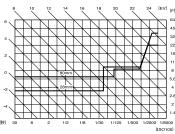
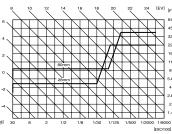
使用フィルム感度—— ISO25～5000［感度自動セット］

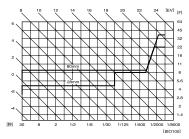
リモートコントロールF仕様

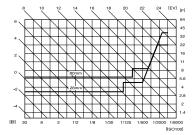
リモコン ―――――― 赤外線リモートコントロール、リモコンシャッターボタン押して約3秒後撮影、作動距離=カメラ前面約5m以内

電源 ―――――― リチウム電池［CR1620］1個
大きさ ―――――― 22mm［幅］×53mm［長］×6.5mm［厚］
質量 ―――――― 7g［電池含む］

プログラム線図

標準モード（ISO100 FA J28～80mm F3.5～5.6［AL］）

人物モード（ISO100 FA J28～80mm F3.5～5.6［AL］）

風景モード（ISO100 FA J28～80mm F3.5～5.6［AL］）

プログラム線図

近接モード（ISO100 FA J28〜80mm F3.5〜5.6［AL]）

動体モード（ISO100 FA J28〜80mm F3.5〜5.6［AL]）

メモ

- ストロボを使用していないときの夜景モードのプログラム線図は、標準モードと同様です。

お客様窓口のご案内

ペンタックス
お客様相談センター（弊社製品に関するお問い合わせ）
〒174－8639　東京都板橋区前野町2－36－9
営業時間　午前9：00～午後6：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

0570－001313
市内通話料金でご使用いただけます。

携帯電話・PHSの方は下記番号をご利用ください。
☎03（3960）3200（代）☎03（3960）0887　デジタルカメラ専用

ショールーム・写真展・修理受付
ペンタックスフォーラム　☎03（3348）2941（代）
〒163－0401　東京都新宿区西新宿2－1－1　新宿三井ビル1階（私書箱240号）
営業時間　午前10：30～午後6：30（年末年始および三井ビル点検日を除き年中無休）

修理受付
ペンタックス札幌営業所お客様窓口　☎011（612）3231（代）
〒060－0010　札幌市中央区北10条西18－36　ペンタックス札幌ビル2階
営業時間　午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス仙台営業所お客様窓口　☎022（371）6663（代）
〒981－3133　仙台市泉区泉中央1－7－1　千代田生命泉中央駅ビル5階
営業時間　午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス名古屋営業所お客様窓口　☎052（962）5331（代）
〒461－0001　名古屋市東区泉1－19－8　ペンタックスビル3階
営業時間　午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス大阪営業所お客様窓口　☎06（6271）7996（代）
〒542－0081　大阪市中央区南船場1－17－9　パールビル2階
営業時間　午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス広島営業所お客様窓口　☎082（234）5681（代）
〒730－0851　広島市中区榎町2－15　榎町ビューロー1階
営業時間　午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

お客様窓口のご案内

ペンタックス福岡営業所お客様窓口　☎092（281）6868（代）
〒810－0802　福岡市博多区中洲中島町3－8　パールビル2階
営業時間　午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

宅配便・郵便修理受付・修理に関するお問い合わせ

ペンタックスサービス（株）東日本修理センター　☎03（3975）4341（代）
〒175－0082 東京都板橋区高島平6－6－2 ペンタックス（株）流通センター内
営業時間　午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックスサービス（株）西日本修理センター　☎06（6271）7996（代）
〒542－0081　大阪市中央区南船場1－17－9　パールビル2階
営業時間　午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ホームページアドレス　http://www.pentax.co.jp/

ペンタックスピックアップリペアサービス
全国(一部の離島を除く)どこからでも均一料金で修理品梱包資材のお届け・修理品のお引取りから、修理完成品のお届けまでを一括して提供する便利なサービスです。
TEL 0120-737-919(フリーダイヤル) TEL 03-3975-4314(携帯・PHS用)
(受付時間：土・日・祝日・年末年始および弊社休業日を除く9 ：00 ～17 ：00)
インターネット受付　 ＵＲL:http://www.pentax.co.jp/japan/p_menu/service/

アフタサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店かお客様相談センター、または最寄りの当社お客様窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のお客様窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと梱包してお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社お客様窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - ・使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - ・当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - ・火災・天災・地変等による故障。
   - ・保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり・ショック等）による故障。
   - ・保証書の添付のない場合。
   - ・販売店名や購入年月日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社お客様窓口にお問い合わせください。
6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、当社お客様窓口にお持ちになるか、またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］
7. 保証内容に関して、くわしくは保証書をご覧ください。

ペンタックス株式会社
〒174-8639 東京都板橋区前野町2-36-9
ペンタックス販売株式会社
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーはペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。
お申し込み、お問い合わせは下記のペンタックスファミリー事務局まで。
〒100−0014　東京都千代田区永田町1−11−1　三宅坂ビル3階
TEL：03−3580−0336

＊ 仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

57232
03-200309　Printed in Japan